

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成25年12月3日

【計算期間】 日本国債アドバンス・オープン（隔月決算型）
第3特定期間（自平成25年3月8日 至平成25年9月9日）
日本国債アドバンス・オープン（年2回決算型）
第3計算期間（自平成25年3月8日 至平成25年9月9日）

【ファンド名】 日本国債アドバンス・オープン（隔月決算型）
日本国債アドバンス・オープン（年2回決算型）

【発行者名】 岡三アセットマネジメント株式会社

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 吉野 俊之

【本店の所在の場所】 東京都中央区八重洲二丁目8番1号

【事務連絡者氏名】 田中 利幸

【連絡場所】 東京都中央区八重洲二丁目8番1号

【電話番号】 03-3516-1432

【縦覧に供する場所】 該当なし

第一部【ファンド情報】

第1【ファンドの状況】

1【ファンドの性格】

(1)【ファンドの目的及び基本的性格】

ファンドの目的

投資信託証券へ投資を行うことにより、投資信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を目指して運用を行います。

信託金の限度額

委託会社は、受託会社と合意のうえ、各ファンドについて金5,000億円を限度として信託金を追加することができます。委託会社は、受託会社と合意のうえ、この限度額を変更することができます。

ファンドの商品分類

ファンドは、一般社団法人投資信託協会が定める商品分類において、「追加型投信 / 内外 / 資産複合」に分類されます。

各ファンド共通の商品分類は、以下のとおりです。

商品分類表（ファンドが該当する商品分類を網掛け表示しています。）

単位型・追加型	投資対象地域	投資対象資産 (収益の源泉)
単位型投信	国内	株式
追加型投信	海外	債券
	内外	不動産投信
		その他資産 ()
		資産複合

属性区分表（ファンドが該当する属性区分を網掛け表示しています。）

< 隔月決算型 >

投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	為替ヘッジ
--------	------	--------	------	-------

株式 一般 大型株 中小型株	年1回	グローバル (日本含む)		
	年2回	日本		
	年4回	北米	ファミリーファン ド	あり ()
債券 一般 公債 社債 その他債券 クレジット属性 ()	年6回 (隔月)	欧州		
	年12回 (毎月)	アジア		
	日々	オセアニア		
不動産投信	その他 ()	中南米	ファンド・オブ・ ファンズ	なし
その他資産 (投資信託証券(資産複 合(債券・一般、その他 資産(金利、為 替))))		アフリカ		
		中近東 (中東)		
		エマージング		
資産複合 () 資産配分固定型 資産配分変更型				

< 年2回決算型 >

投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	為替ヘッジ
株式 一般 大型株 中小型株	年1回	グローバル (日本含む)		
	年2回	日本		
	年4回	北米	ファミリーファン ド	あり ()
債券 一般 公債 社債 その他債券 クレジット属性 ()	年6回 (隔月)	欧州		
	年12回 (毎月)	アジア		
	日々	オセアニア		
不動産投信	その他 ()	中南米	ファンド・オブ・ ファンズ	なし
その他資産 (投資信託証券(資産複 合(債券・一般、その他 資産(金利、為 替))))		アフリカ		
		中近東 (中東)		
		エマージング		
資産複合 () 資産配分固定型 資産配分変更型				

ファンドは、投資信託証券を主要投資対象とするファンド・オブ・ファンズ形式で運用を行うため、属性区分におけるファンドの投資対象資産は、「その他資産（投資信託証券）」とな

り、商品分類における投資対象資産(収益の源泉)である「資産複合」とは分類・区分が異なります。

属性区分表に記載している「為替ヘッジ」は、対円での為替リスクに対するヘッジの有無を記載しております。

商品分類および属性区分の定義につきましては、下記をご覧ください。なお、一般社団法人投資信託協会のホームページ(<http://www.toushin.or.jp/>)でもご覧いただけます。

一般社団法人投資信託協会が定める「商品分類に関する指針」に基づくファンドの商品分類および属性区分は以下のとおりです。

[商品分類表の定義]

《単位型投信・追加型投信の区分》

- (1) 単位型投信...当初、募集された資金が一つの単位として信託され、その後の追加設定は一切行われないファンドをいう。
- (2) 追加型投信...一度設定されたファンドであってもその後追加設定が行われ従来の信託財産とともに運用されるファンドをいう。

《投資対象地域による区分》

- (1) 国内...目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に国内の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (2) 海外...目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に海外の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (3) 内外...目論見書又は投資信託約款において、国内及び海外の資産による投資収益を実質的に源泉とする旨の記載があるものをいう。

《投資対象資産による区分》

- (1) 株式...目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に株式を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (2) 債券...目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に債券を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (3) 不動産投信(リート)...目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に不動産投資信託の受益証券及び不動産投資法人の投資証券を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (4) その他資産...目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に上記(1)から(3)に掲げる資産以外の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。なお、その他資産と併記して具体的な組入資産そのものの名称記載も可とする。
- (5) 資産複合...目論見書又は投資信託約款において、上記(1)から(4)に掲げる資産のうち複数の資産による投資収益を実質的に源泉とする旨の記載があるものをいう。

《独立した区分》

- (1) MMF(マネー・マネージメント・ファンド)...「MMF等の運営に関する規則」に定めるMMFをいう。
- (2) MRF(マネー・リザーブ・ファンド)...「MMF等の運営に関する規則」に定めるMRFをいう。

- (3) ETF...投資信託及び投資法人に関する法律施行令（平成12年政令480号）第12条第1号及び第2号に規定する証券投資信託並びに租税特別措置法（昭和32年法律第26号）第9条の4の2に規定する上場証券投資信託をいう。

《補足分類》

- (1) インデックス型...目論見書又は投資信託約款において、各種指数に連動する運用成果を目指す旨の記載があるものをいう。
- (2) 特殊型...目論見書又は投資信託約款において、投資者に対して注意を喚起することが必要と思われる特殊な仕組みあるいは運用手法の記載があるものをいう。なお、[属性区分表の定義]で《特殊型》の小分類において「条件付運用型」に該当する場合には当該小分類を括弧書きで付記するものとし、それ以外的小分類に該当する場合には当該小分類を括弧書きで付記できるものとする。

[属性区分表の定義]

《投資対象資産による属性区分》

(1) 株式

一般・・・次の大型株、中小型株属性にあてはまらない全てのものをいう。

大型株・・・目論見書又は投資信託約款において、主として大型株に投資する旨の記載があるものをいう。

中小型株・・・目論見書又は投資信託約款において、主として中小型株に投資する旨の記載があるものをいう。

(2) 債券

一般・・・次の国債、社債、その他債券属性にあてはまらない全てのものをいう。

公債・・・目論見書又は投資信託約款において、日本国又は各国の政府の発行する国債（地方債、政府保証債、政府機関債、国際機関債を含む。以下同じ。）に主として投資する旨の記載があるものをいう。

社債・・・目論見書又は投資信託約款において、企業等が発行する社債に主として投資する旨の記載があるものをいう。

その他債券・・・目論見書又は投資信託約款において、国債又は社債以外の債券に主として投資する旨の記載があるものをいう。

格付等クレジットによる属性・・・目論見書又は投資信託約款において、上記からの「発行体」による区分のほか、特にクレジットに対して明確な記載があるものについては、上記からに掲げる区分に加え「高格付債」「低格付債」等を併記することも可とする。

(3) 不動産投信・・・これ以上の詳細な分類は行わないものとする。

(4) その他資産・・・組入れている資産を記載するものとする。

(5) 資産複合・・・以下の小分類に該当する場合には当該小分類を併記することができる。

資産配分固定型・・・目論見書又は投資信託約款において、複数資産を投資対象とし、組入比率については固定的とする旨の記載があるものをいう。なお、組み合わせている資産を列挙するものとする。

資産配分変更型・・・目論見書又は投資信託約款において、複数資産を投資対象とし、組入比率については、機動的な変更を行なう旨の記載があるものもしくは

は固定的とする旨の記載がないものをいう。なお、組み合わせている資産を列挙するものとする。

《決算頻度による属性区分》

- (1) 年1回・・・目論見書又は投資信託約款において、年1回決算する旨の記載があるものをいう。
- (2) 年2回・・・目論見書又は投資信託約款において、年2回決算する旨の記載があるものをいう。
- (3) 年4回・・・目論見書又は投資信託約款において、年4回決算する旨の記載があるものをいう。
- (4) 年6回(隔月)・・・目論見書又は投資信託約款において、年6回決算する旨の記載があるものをいう。
- (5) 年12回(毎月)・・・目論見書又は投資信託約款において、年12回(毎月)決算する旨の記載があるものをいう。
- (6) 日々・・・目論見書又は投資信託約款において、日々決算する旨の記載があるものをいう。
- (7) その他・・・上記属性にあてはまらない全てのものをいう。

《投資対象地域による属性区分(重複使用可能)》

- (1) グローバル・・・目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が世界の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。なお、「世界の資産」の中に「日本」を含むか含まないかを明確に記載するものとする。
- (2) 日本・・・目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が日本の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (3) 北米・・・目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が北米地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (4) 欧州・・・目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が欧州地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (5) アジア・・・目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が日本を除くアジア地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (6) オセアニア・・・目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益がオセアニア地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (7) 中南米・・・目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が中南米地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (8) アフリカ・・・目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益がアフリカ地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (9) 中近東(中東)・・・目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が中近東地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (10) エマージング・・・目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益がエマージング地域(新興成長国(地域))の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。

《投資形態による属性区分》

- (1) ファミリーファンド・・・目論見書又は投資信託約款において、親投資信託(ファンド・オブ・ファンズ)にのみ投資されるものを除く。)を投資対象として投資するものをいう。
- (2) ファンド・オブ・ファンズ・・・「投資信託等の運用に関する規則」第2条に規定するファンド・オブ・ファンズをいう。

《為替ヘッジによる属性区分》

- (1) 為替ヘッジあり・・・目論見書又は投資信託約款において、為替のフルヘッジ又は一部の資産に為替のヘッジを行う旨の記載があるものをいう。
- (2) 為替ヘッジなし・・・目論見書又は投資信託約款において、為替のヘッジを行わない旨の記載があるもの又は為替のヘッジを行う旨の記載がないものをいう。

《インデックスファンドにおける対象インデックスによる属性区分》

- (1) 日経225
- (2) TOPIX
- (3) その他の指数・・・上記指数にあてはまらない全てのものをいう。

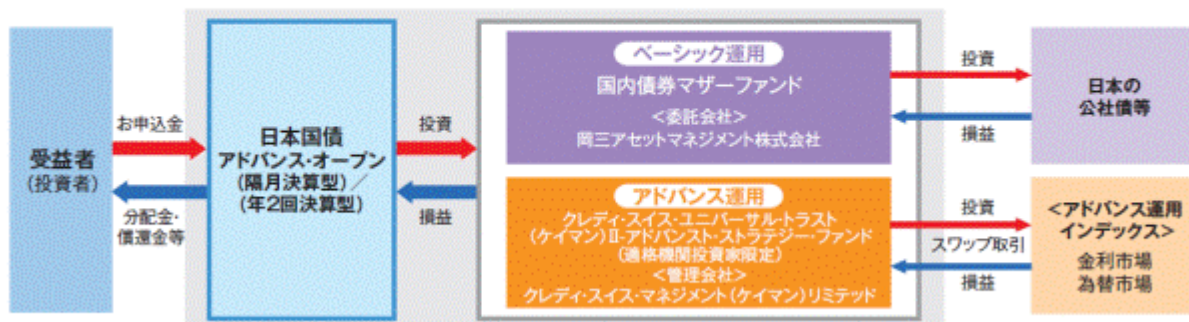
《特殊型》

- (1) ブル・ベア型...目論見書又は投資信託約款において、派生商品をヘッジ目的以外に用い、積極的に投資を行うとともに各種指数・資産等への連動若しくは逆連動(一定倍の連動若しくは逆連動を含む。)を目指す旨の記載があるものをいう。
- (2) 条件付運用型...目論見書又は投資信託約款において、仕組債への投資またはその他特殊な仕組みを用いることにより、目標とする投資成果(基準価額、償還価額、収益分配金等)や信託終了日等が、明示的な指標等の値により定められる一定の条件によって決定される旨の記載があるものをいう。
- (3) ロング・ショート型/絶対収益追求型...目論見書又は投資信託約款において、特定の市場に左右されにくい収益の追求を目指す旨若しくはロング・ショート戦略により収益の追求を目指す旨の記載があるものをいう。
- (4) その他型...目論見書又は投資信託約款において、上記(1)から(3)に掲げる属性のいずれにも該当しない特殊な仕組みあるいは運用手法の記載があるものをいう。

〈ファンドの特色〉

- 投資信託証券への投資を通じて、実質的に日本の公社債および国内外の金利・為替市場へ投資を行うことにより、リスクを抑え、安定した収益の確保を目指します。

〈ファンド・オブ・ファンズ形式〉



※「隔月決算型」と「年2回決算型」との間でスイッチングが可能ですが、取扱いには販売会社によって異なります。詳しくは販売会社にご確認下さい。

以下の投資信託証券に投資します。

- 国内債券マザーファンド

日本の公社債*を主要投資対象とし、安定した収益の確保と投資信託財産の成長を図ることを目指します。

※公社債とは、国債、地方債、政府保証債、社債等をいいます。

- クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト (ケイマン) II-アドバンス・ストラテジー・ファンド (適格機関投資家限定) (以下、「アドバンス・ストラテジー・ファンド」といいます。)

アドバンス運用インデックス*の運用成果を受取る取引 (担保付スワップ取引) をクレディ・スイス・インターナショナルと行います。

※アドバンス運用インデックスは、複数の戦略を用いて国内外の金利・為替市場への投資を行い、リスクを抑え安定したパフォーマンスを得ることを目指した、クレディ・スイス・インターナショナルが開発・算出する円建てインデックスです。

- 各投資信託証券の組入比率は、それぞれ投資信託財産の50%程度とします。

※資金動向、市況動向等によっては、各投資信託証券の組入比率が50%程度とされない場合があります。

- 決算回数が年6回の「隔月決算型」と年2回の「年2回決算型」からお選びいただけます。

「隔月決算型」と「年2回決算型」との間でスイッチングが可能です。

※詳しくは販売会社にご確認下さい。

※資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

ファンドは、「ベーシック運用」を行う国内債券マザーファンドと「アドバンス運用」を行うアドバンス・ストラテジー・ファンドを、それぞれ50%程度組入れます。



安定的に収益を積み増す源泉

- 「アドバンス運用インデックス」の運用成果を受取る取引を行います。
- ※アドバンス運用インデックスは、複数の戦略を用いて国内外の金利・為替市場への投資を行います。各戦略間の調整およびアドバンス運用インデックス自体のリスク調整を行うことで、リスクを抑え安定したパフォーマンスを得ることを目指した円建てインデックスです。

安定したパフォーマンスの源泉

- 日本国債等、日本の公社債に投資します。

ベーシック運用について

日本の公社債を主要投資対象とし、安定した収益の確保と投資信託財産の成長を図ることを目標に運用を行います。

運用にあたっては、投資環境分析、マクロ経済分析、イールドカーブ分析等に基づき、投資銘柄や期間別配分、デュレーション等の決定および変更を行い、リスクコントロールを図りながら収益の獲得を目指します。

NOMURA-BPI総合（NOMURA-債券・パフォーマンス・インデックス総合）を参考指標とし、主として当該指数構成銘柄によりポートフォリオを構築します。

アドバンス運用について

複数の戦略を用いたアドバンス運用インデックスの運用成果を受取る取引（担保付スワップ取引）を行います。様々な相場環境の下でも、安定的に収益を積み上げることを目指します。

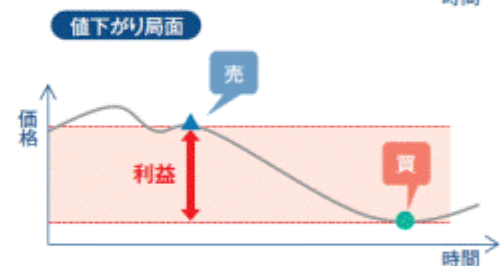
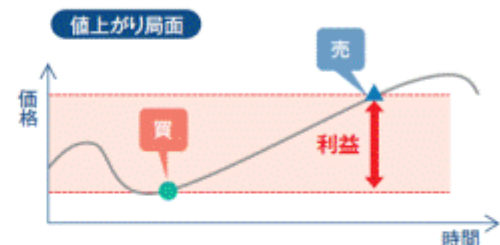
アドバンス運用のイメージ図

■価格の値上がりも、値下がりも、チャンスに変える

投資資産の価格の値上がりが見込まれる局面だけでなく、値下がりが予想される局面でも、利益を追求します。

価格が値上がりすると予想される場合は、買いを行い、その後価格が高くなった時に売ることによって、価格差の獲得を目指します。

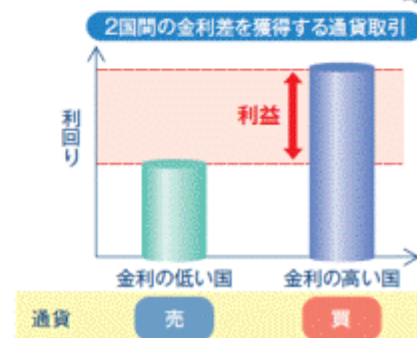
逆に、価格が値下がりすると予想される場合は、まず売りを行い、安くなったら買い戻すことにより、価格差の獲得を目指します。



■先進国や新興国の通貨に投資

国によって異なる金利に着目し、各国間の金利差の獲得を目指します。

相対的に金利の低い国の通貨を売り、相対的に金利の高い国の通貨を買うことで、この2国間の金利差を獲得することと同様の効果が見込めます。

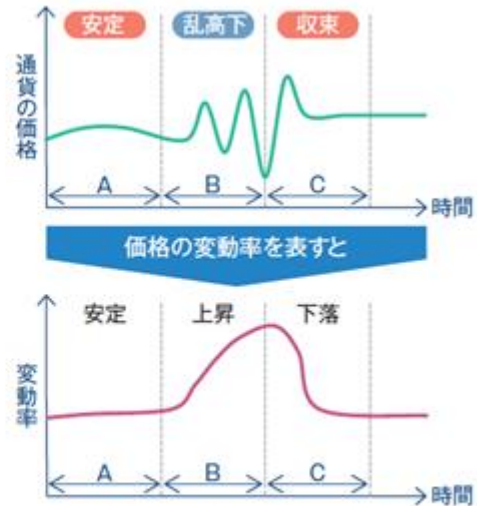


市場混乱時等の価格変動に対応

為替市場の値動きに着目し、「通貨の変動率取引」を行うことで収益の獲得を目指します。

「通貨の変動率取引」の価格は、為替市場の値動きが大きくなると上昇し、為替市場の値動きが小さくなると下落します。通貨の変動率を予想し、局面に応じて「買い」または「売り」のポジションをとります。

金融市場の混乱時等には、為替市場の値動きが大きくなることがあります。その場合は「通貨の変動率取引」で「買い」のポジションをとり、収益の獲得を目指します。



※アドバンス運用のイメージ図は、アドバンス運用が期待通りの成果が得られたと仮定した場合のものです。必ずしもイメージ図通りの運用成果を得られるものではありません。イメージ図と異なる動きをした場合は、損失となることがあります。

ファンドの目的・特色 【収益分配金に関する留意事項】

- ファンドの分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われます。分配金が支払われると、その金額相当分、ファンドの純資産が減少するため、基準価額は下がります。

※分配金の有無や金額は確定したものではありません。

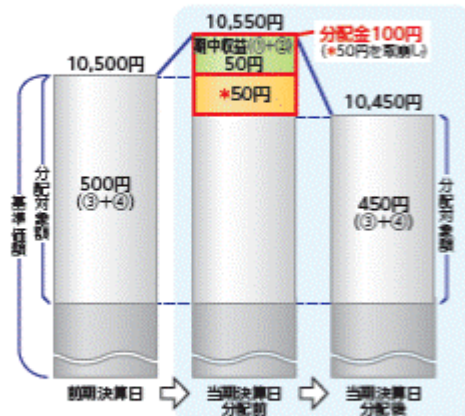
ファンドで分配金が支払われるイメージ



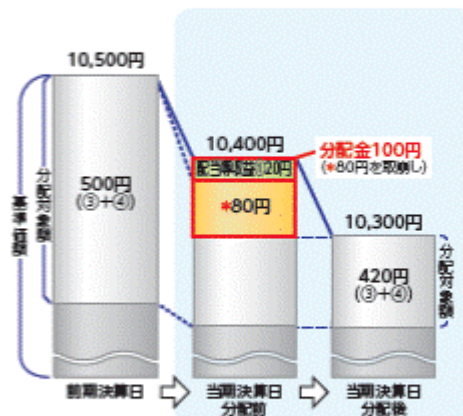
- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）の中から支払われる場合と、計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があります。計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合のイメージ

前期決算日から基準価額が上昇した場合



前期決算日から基準価額が下落した場合

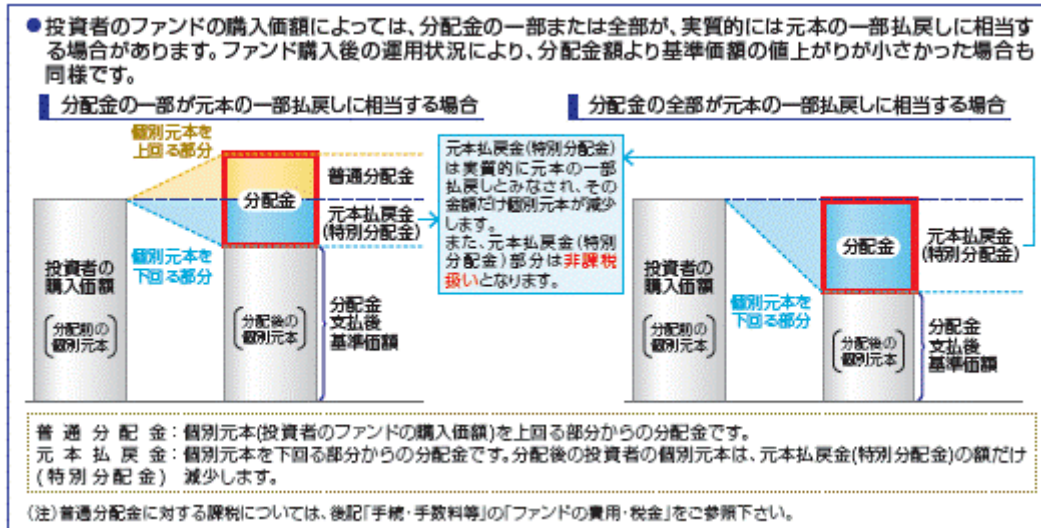


※分配金は、分配方針に基づき、分配対象額①経費控除後の配当等収益 ②経費控除後の評価益を含む売買益 ③分配準備積立金 ④収益調整金から支払われます。

分配準備積立金：期中収益①+②のうち、決算時に分配に充てずファンド内部に留保した収益を積み立てたもので、次期以降の分配金に充てることができます。

収益調整金：追加購入により、既存投資者の分配対象額が希薄化しないようにするために設けられたものです。

※上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

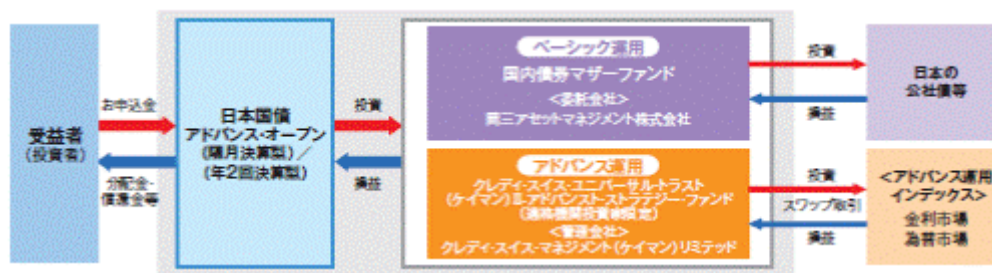


(2) 【ファンドの沿革】

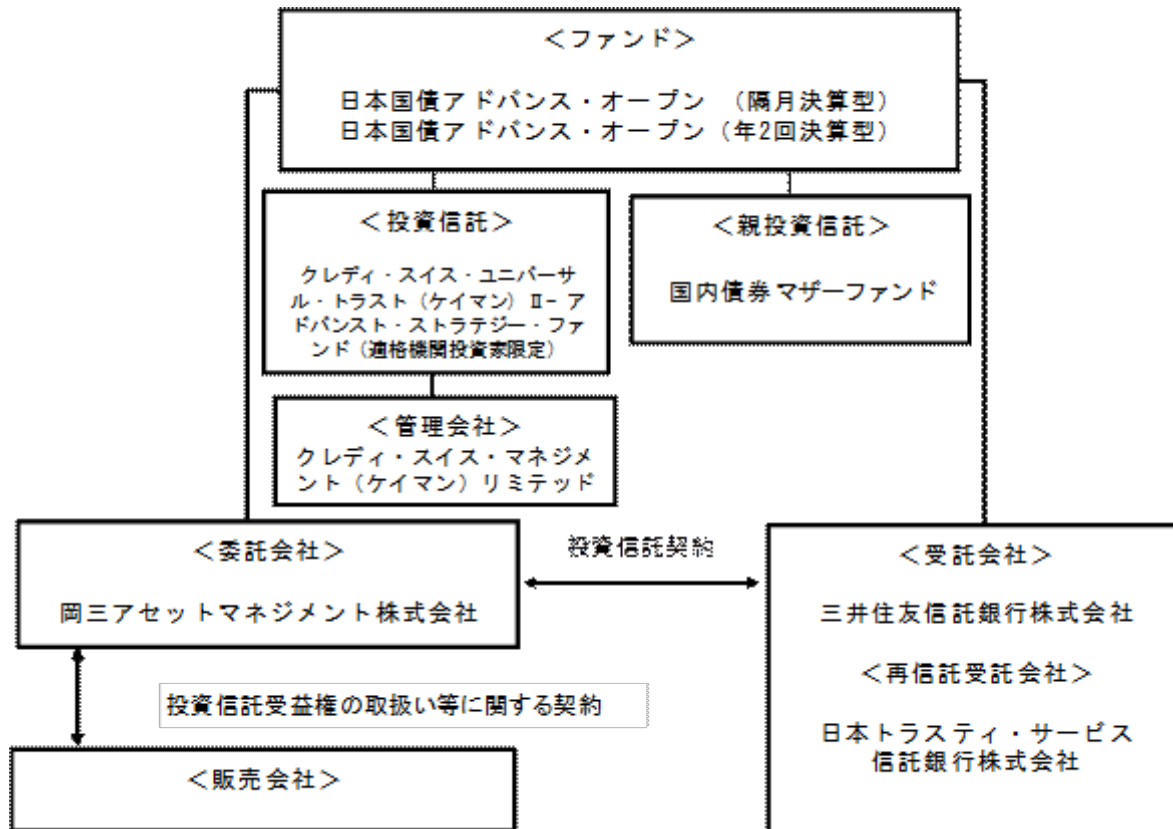
平成24年4月18日 投資信託契約締結、設定、運用開始

(3) 【ファンドの仕組み】

ファンド・オブ・ファンズの仕組み



ファンドの関係法人とその役割



関係法人	役割
委託会社	投資信託契約に基づき、投資信託財産の運用指図、投資信託財産の計算（基準価額の計算）、収益分配金、償還金及び解約金の支払い、投資信託説明書（交付目論見書）、投資信託説明書（請求目論見書）および運用報告書の作成・交付等を行います。
受託会社	投資信託契約に基づき、投資信託財産の保管・管理・計算、委託会社の指図に基づく投資信託財産の処分等を行います。
再信託受託会社	受託会社との再信託契約に基づき、所定の事務を行います。
投資対象とする投資信託の管理会社	投資対象とする投資信託の運用を行います。
販売会社	委託会社との間に締結した「投資信託受益権の取扱い等に関する契約」に基づき、受益権の募集の取扱い、投資信託説明書（交付目論見書）、投資信託説明書（請求目論見書）及び運用報告書の交付の取扱い、解約請求の受付、買取請求の受付・実行、収益分配金、償還金及び解約金の支払事務等を行います。

委託会社の概況（平成25年9月末日現在）

資本金

10億円

委託会社の沿革

昭和39年10月 6 日	「日本投信委託株式会社」設立
昭和62年 6 月27日	第三者割当増資の実施（新資本金 4億5,000万円）
平成 2 年 6 月30日	第三者割当増資の実施（新資本金 10億円）
平成20年 4 月 1 日	岡三投資顧問株式会社と合併し、商号を「岡三アセットマネジメント株式会社」に変更

大株主の状況

名 称	住 所	持株数	持株比率
岡三興業株式会社	東京都中央区日本橋小網町9番9号	253,400株	30.71%
株式会社岡三証券グループ	東京都中央区日本橋1丁目17番6号	174,801株	21.19%
株式会社りそな銀行	大阪市中央区備後町2丁目2番1号	41,150株	4.99%
三菱UFJ信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目4番5号	41,150株	4.99%
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区丸の内1丁目3番3号	41,149株	4.99%

2【投資方針】

(1)【投資方針】

基本方針

ファンドは、投資信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を目指して運用を行います。

運用方法

a 投資対象

親投資信託（以下「マザーファンド」といいます。）の受益証券および外国投資信託の受益証券（以下、両受益証券をあわせて「投資信託証券」といいます。）を主要投資対象とします。

b 投資態度

イ．主として以下の投資信託証券への投資を通じて、リスクを抑え、安定した収益の確保を目指します。

- ・国内債券マザーファンド
- ・クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト（ケイマン） - アドバンスト・ストラテジー・ファンド（適格機関投資家限定）

ロ．マザーファンドは、わが国の公社債を主要投資対象とし、安定した収益の確保と投資信託財産の成長を図ることを目指します。

ハ．外国投資信託は、アドバンス運用インデックスの騰落率を投資信託財産に反映させることを目指します。アドバンス運用インデックスは、複数の戦略を用いて国内外の金利・為替市場への投資を行い、リスクを抑え安定したパフォーマンスを得ることを目指した円建てインデックスです。

ニ．各投資信託証券の組入比率は、それぞれ投資信託財産の50%程度とします。ただし、資金動向、市況動向等によっては、各投資信託証券の組入比率が50%程度とまらない場合があります。

ホ．資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

(2) 【投資対象】

投資の対象とする資産の種類

ファンドにおいて投資の対象とする資産の種類は、次に掲げるものとします。

- a 次に掲げる特定資産（「特定資産」とは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第1項で定めるものをいいます。以下同じ。）
 - イ．有価証券
 - ロ．金銭債権
 - ハ．約束手形

- b 次に掲げる特定資産以外の資産
 - イ．為替手形

運用の指図範囲

a 有価証券

委託会社は、信託金を、主として別に定める投資信託証券（金融商品取引法第2条第1項第10号で定めるものをいいます。）のほか、次の有価証券（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除くものとし、本邦通貨表示のものに限ります。）に投資することを指図します。

- イ．コマーシャル・ペーパーおよび短期社債等
- ロ．外国または外国の者の発行する証券または証書でイ．の証券の性質を有するもの
- ハ．国債証券、地方債証券、特別の法律により法人の発行する債券および社債券（新株引受権証券と社債券とが一体となった新株引受権付社債券の新株引受権証券および短期社債等を除きます。）
- ニ．外国法人が発行する譲渡性預金証書
- ホ．指定金銭信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限ります。）

なお、ハ．の証券を以下「公社債」といいます。公社債にかかる運用の指図は、買い現先取引（売戻条件付買入れ）に限り行うことができるものとします。

別に定める投資信託証券は以下をいいます。

- ・国内債券マザーファンド
- ・クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト（ケイマン） - アドバンスト・ストラテジー・ファンド（適格機関投資家限定）

b 金融商品

委託会社は、信託金を、上記の有価証券のほか、以下の金融商品（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。）により運用することを指図することができます。

イ．預金

ロ．指定金銭信託（金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。）

ハ．コール・ローン

ニ．手形割引市場において売買される手形

c 特別な場合の運用指図

ファンドの設定、一部解約、償還および投資環境の変動等への対応等で、委託会社が運用上必要と認めるときには、委託会社は、信託金を、上記の金融商品により運用することの指図ができます。

（参考）ファンドが投資する投資信託証券の概要

1. 国内債券マザーファンド

委託会社	岡三アセットマネジメント株式会社
基本方針	安定した収益の確保と投資信託財産の成長を図ることを目標に運用を行います。
投資対象	わが国の公社債を主要投資対象とします。
投資態度	わが国の公社債を主要投資対象とし、安定した収益の確保と投資信託財産の成長を図ることを目標に運用を行います。 運用にあたっては、投資環境分析、マクロ経済分析、イールドカーブ分析等に基づき、投資銘柄や期間別配分、デュレーション等の決定及び変更を行い、リスクコントロールを図りながら収益の獲得を目指します。 NOMURA BPI総合（NOMURA ボンド・パフォーマンス・インデックス総合）を参考指標とし、主として当該指数構成銘柄によりポートフォリオを構築します。 公社債の組入比率は、高位を保つことを基本とします。 資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。
主要な投資制限	株式への投資は行いません。 外貨建資産への投資は行いません。
決算日、分配方針	毎年10月18日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行います。 投資信託財産から生ずる利益は、信託終了時まで投資信託財産中に留保し、期中には分配を行いません。
申込手数料	ありません。
解約手数料	ありません。
信託財産留保額	ありません。
信託報酬	ありません。
その他の費用	以下の費用を、投資信託財産から支弁します。 ・ 組入る有価証券の売買委託手数料 ・ 先物取引・オプション取引等の売買委託手数料 ・ 投資信託財産に関する租税 ・ 信託事務の処理に要する諸費用 ・ 受託会社の立替えた立替金の利息

NOMURA BPI総合（NOMURA ボンド・パフォーマンス・インデックス総合）の著作権等について

NOMURA - BPI 総合は、野村證券株式会社が公表している、日本の公募債券流通市場全体の動向を的確に表すために開発された投資収益指数で、その知的財産権は野村證券株式会社に帰属します。当インデックスは、一定の組み入れ基準に基づいて構成されたポートフォリオのパフォーマンスを基に計算されます。インデックス構成銘柄は、一定の条件を満たしていることが組入条件となっており、例えば、事業債および円建外債の場合は、S & P、ムーディーズ、格付投資情報センター、日本格付研究所の内いずれかからA格相当以上の格付けを取得している銘柄となっています。なお、野村證券株式会社は、NOMURA - BPI 総合の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切の責任を負うものではありません。

2. クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト（ケイマン） - アドバンスト・ストラテジー・ファンド（適格機関投資家限定）

ファンドの形態	ケイマン籍/外国投資信託/追加型/円建/契約型（適格機関投資家限定）
管理会社	クレディ・スイス・マネジメント（ケイマン）リミテッド
投資対象	担保付スワップ
運用方針	担保付スワップ取引に投資することにより、アドバンス運用インデックスと概ね同じパフォーマンス（ファンド関連費用控除後）の獲得を目指します。アドバンス運用インデックスは、複数の戦略を用いることで国内外の金利・為替市場への名目上の投資を反映するものです。各戦略間の配分比率の調整およびアドバンス運用自体のリスク調整を行うことで、リスクを抑えつつ収益の獲得を目指した円建てインデックスです。
担保付スワップ	クレディ・スイス・インターナショナルとの間で、担保付スワップ取引を行います。
運用報酬	年率0.80%
申込手数料	ありません。
換金手数料	ファンド買戻日の買戻し価額に0.40%の率を乗じて得た額
その他の費用	ファンドの運営管理費用として、 管理事務代行報酬：上限年間70,000米ドル 受託報酬：上限年間20,000米ドル 登録事務代行報酬：毎月700米ドルおよび1取引当たり20米ドル がかかる他弁護士費用等がかかります。
財務顧問会社 計算代行会社 報酬代行会社	クレディ・スイス・インターナショナル
受託会社 管理事務代行会社	BNYファンド・マネジメント（ケイマン）リミテッド
監査法人	KPMG

クレディ・スイス・インターナショナルは、チューリッヒに本拠を置く世界有数の金融グループ、クレディ・スイス・グループの一員です。

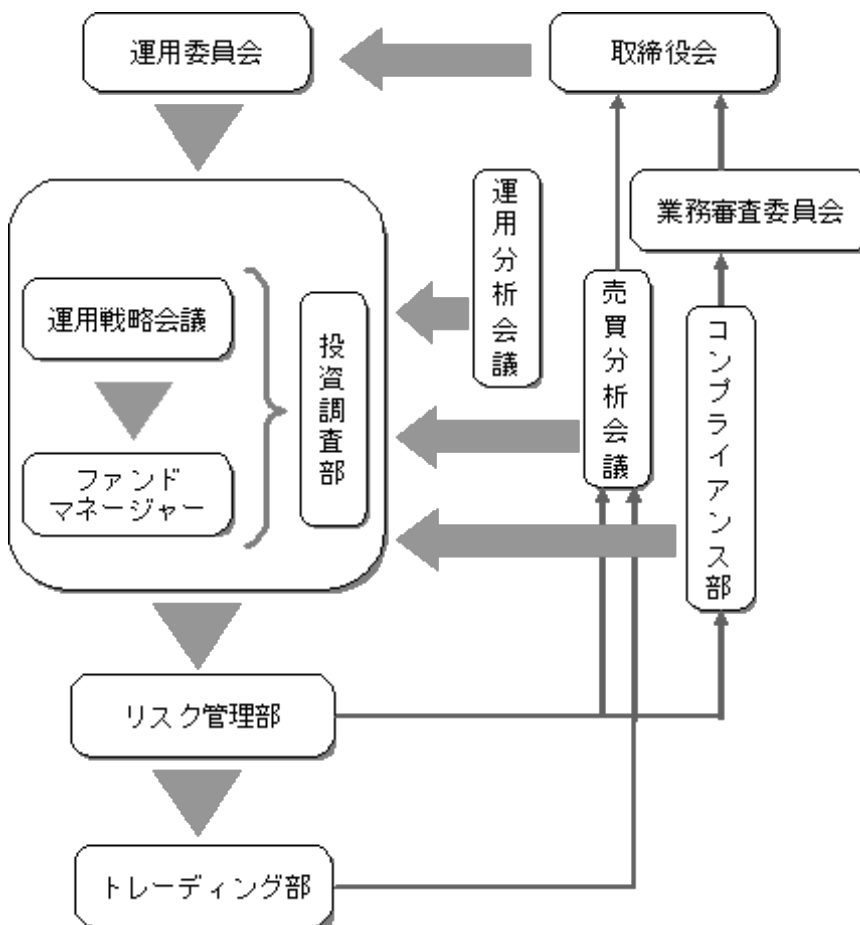
インデックス・スポンサーであるクレディ・スイス・インターナショナルは、指数及び/又は特定の日に指数が示す数値の使用その他により得られる結果、並びに指数を参照する取引の実行又は受益証券に係るリスクの取得若しくは負担に関する妥当性につき、明示的、黙示的を問わずいかなる表明も行いません。インデックス・スポンサーは、過失によるか否かを問わず指数に含まれる誤りにつき何人に対しても責任を負わず、また、かかる誤りがあることを何人に対しても伝える義務も負いません。いかなる者も指

数の計算、調整又は維持に関するインデックス・スポンサーの作為又は不作為について他の者に対して責任を負うことはありません。担保付スワップにおける計算代理人は自身が信頼を置く公的に利用可能な情報源から指数に関する情報を取得しますが、独立に情報の検証をするものではありません。したがって、いずれの当事者及びその関係会社並びに計算代理人も、指数に関する情報の正確性、完全性若しくは適時性につき明示的、黙示的を問わずいかなる表明、保証又は約束も行いません。

（３）【運用体制】

運用体制、内部管理および意思決定を監督する組織

ファンドの運用体制、内部管理および意思決定を監督する組織は、以下のようになります。



会議名または部署名	役割
運用委員会 (月1回開催)	運用本部で開催する「ストラテジー会議」で策定された投資環境分析と運用の基本方針案に基づいて検討を行い、運用の基本方針を決定します。また、運用に関する内規の制定及び改廃のほか、運用ガイドライン等運用のリスク管理に関する事項を決定します。
運用戦略会議 (月1回開催)	ファンドマネージャーより運用委員会で決定された運用の基本方針に基づいた個別ファンドの具体的な投資戦略が報告され、その内容について検討を行います。
運用担当部署	ファンドマネージャーは、運用戦略会議で検討された投資戦略に基づき、ファンド毎に具体的な運用計画を策定し、運用計画書・運用実施計画書に基づいて、運用の指図を行います。
投資調査部	国内外のマクロ経済・セミマクロ経済の調査・分析、市場環境の分析、企業の調査・分析等を行い、ファンドマネージャーに情報提供を行うことで、運用をサポートします。

運用分析会議 (月1回開催)	運用のパフォーマンス向上、運用の適正性の確保、および運用のリスク管理に資することを目的に、個別ファンドの運用パフォーマンスを分析・検証・評価し、運用本部にフィードバックを行います。
売買分析会議 (月1回開催)	運用財産に係る運用の適切性確保に資することを目的にファンドの有価証券売買状況や組入れ状況など、日々、リスク管理部、トレーディング部が行っている運用の指図に関するチェック状況の報告・指摘を行います。議長は会議の結果を取締役会へ報告します。
業務審査委員会 (原則月1回開催)	運用の指図において発生した事務処理ミスや社内規程等に抵触した事項などについて、審議・検討を行います。委員長は審議・検討結果を取締役会へ報告します。
コンプライアンス部 (5名程度)	運用業務にかかわる関係法令及び社内諸規則等の遵守状況の検証並びに検証に基づく運用本部への指導を行います。
リスク管理部 (6名程度)	「運用の指図に関する検証規程」に基づき、投資信託財産の運用の指図につき、法令諸規則等に定める運用の指図に関する事項の遵守状況の確認を行います。発注前の検証として、発注内容が法令諸規則等に照らして適当であるのか伝票又はオーダー・マネジメント・システムのコンプライアンスチェック機能を利用して確認を行い、発注後の検証として、運用指図結果の適法性又は適正性について確認を行います。
トレーディング部 (7名程度)	有価証券、デリバティブ取引に係る権利等の発注に関し、法令諸規則等に基づいて最良執行に努めています。また、運用指図の結果について最良執行の観点からの検証・分析を行います。

社内規程

委託会社では、ファンドの運用に関する社内規程において、運用を行うに当たって遵守すべき事項等を定め、ファンドの商品性に則った適切な運用を行っています。

また、委託会社では、リスク管理規程において、運用に関するリスク管理方針を定め、運用本部及び運用本部から独立した部署が、運用の指図について運用の基本方針や法令諸規則等に照らして適切かどうかのモニタリング・検証を通じて、運用リスクの管理を行っています。

ファンドの関係法人(販売会社を除く)に対する管理体制等

「受託会社」または「再信託受託会社」に対しては、日々の基準価額および純資産照合、月次の勘定残高照合などを行っております。

委託会社は、他の運用会社が運用の指図を行う投資対象ファンドについて、ファンド運営の適切性、運用の継続性等を確認したうえで投資を行うとともに、運用成績等に関するモニタリングを行っています。

運用体制等につきましては、平成25年9月末日現在のものであり、変更になることがあります。

(4) 【分配方針】

< 隔月決算型 >

年6回、1月、3月、5月、7月、9月および11月の各月の7日(休業日の場合は翌営業日)に決算を行い、原則として、以下の方針に基づき収益分配を行います。

< 年2回決算型 >

年2回、3月および9月の各月の7日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、原則として、以下の方針に基づき収益分配を行います。

（各ファンド共通事項）

a 分配対象収益の範囲

繰越分を含めた経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。繰越分を含めた配当等収益には、マザーファンドの配当等収益のうち、投資信託財産に帰属すべき配当等収益を含むものとします。

b 分配対象収益についての分配方針

分配金額は、委託会社が分配可能額、基準価額水準等を勘案のうえ決定します。ただし、分配可能額が少額の場合や基準価額水準によっては、収益分配を行わないことがあります。

c 留保益の運用方針

収益分配に充てなかった留保益については、運用の基本方針と同一の運用を行います。

d 収益分配金は、決算日から起算して、原則として、5営業日までに販売会社を通じて支払いを開始します。

分配金再投資コースの場合、収益分配金は、税金を差し引いた後、決算日の基準価額で再投資いたします。

収益分配金は、決算日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（当該収益分配金に係る決算日以前において一部解約が行われた受益権に係る受益者を除きます。また、当該収益分配金に係る決算日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者として）にお支払いします。また、分配金再投資コースの場合、再投資により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。

分配方針に基づいて収益分配を行う予定ですが、分配金の支払いを保証するものではありません。

（5）【投資制限】

投資信託証券への投資割合には制限を設けません。

株式への直接投資は行いません。

外貨建資産への直接投資は行いません。

公社債の運用指図

国債証券、地方債証券、特別の法律により法人の発行する債券および社債券（新株引受権証券と社債券とが一体となった新株引受権付社債券の新株引受権証券および短期社債等を除きます。）

にかかる運用の指図は、買い現先取引（売戻条件付買入れ）に限り行うことができるものとします。

資金の借入れ

- a 委託会社は、投資信託財産の効率的な運用ならびに運用の安定性をはかるため、一部解約に伴う支払資金の手当て（一部解約に伴う支払資金の手当てのために借入れた資金の返済を含みます。）を目的として、または再投資にかかる収益分配金の支払資金の手当てを目的として、資金借入（コール市場を通じる場合を含みます。）の指図をすることができます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行わないものとします。
- b 一部解約に伴う支払資金の手当てにかかる借入期間は、受益者への解約代金支払開始日から投資信託財産で保有する有価証券等の売却代金の受渡日までの間または受益者への解約代金支払開始日から投資信託財産で保有する有価証券等の解約代金入金日までの間もしくは受益者への解約代金支払開始日から投資信託財産で保有する有価証券等の償還金の入金日までの期間が5営業日以内である場合の当該期間とし、資金借入額は当該有価証券等の売却代金、有価証券等の解約代金および有価証券等の償還金の合計額を限度とします。
- c 収益分配金の再投資にかかる借入期間は、投資信託財産から収益分配金が支弁される日からその翌営業日までとし、資金借入額は、収益分配金の再投資額を限度とします。
- d 借入金の利息は、投資信託財産中より支弁します。

3【投資リスク】

投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
投資信託は預貯金と異なります。投資信託財産に生じた利益及び損失は、すべて投資者の皆さまに帰属します。
ファンドは、主に日本の公社債等値動きのある有価証券に投資すると共に、スワップ取引を通じて実質的に国内外の金利・為替市場への投資を行います。このため、組入れた有価証券等の価格の下落、為替相場の変動等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。なお、スワップ取引の相手方が倒産もしくは支払不能となった場合、多くの損失を被る場合があります。

<投資リスク>

ベーシック運用の主な変動要因

金利変動リスク

金利は、経済環境や物価動向、金融政策、経済政策等を反映して変動します。一般に、金利が上昇した場合には債券の価格は下落し、金利が低下した場合には債券の価格は上昇します。

投資した債券の価格の上昇は、ファンドの基準価額の上昇要因となり、投資した債券の価格の下落は、ファンドの基準価額の下落要因となります。

投資した債券の価格の下落の影響で、ファンドの基準価額が下落し、損失を被る可能性があります。

信用リスク

有価証券等の発行体の破綻や財務状況の悪化、および有価証券等の発行体の財務状況に関する外部評価の変化等の影響により、投資した有価証券等の価格が大きく下落することや、投資資金が回収不能となる場合があります。このような場合には、ファンドの基準価額が下落し、損失を被る可能性があります。

債券や短期金融商品へ投資した場合には、元利支払いの不履行もしくは遅延の影響で、ファンドの基準価額が下落し、損失を被る可能性があります。

アドバンス運用の主な変動要因

金利変動リスク

金利の変化等によって価格が変動する取引（金利先物取引、金利スワップ取引）の影響を受けるため、金利の動きや先物、スワップ市場の需給等の影響により、損失を被ることがあります。

為替変動リスク

アドバンス運用インデックスは、新興国を含めた為替取引を行いますので、関連する為替取引の影響を受けて、価格が変動します。このため、為替市場において変動があった場合、損失を被ることがあります。

流動性リスク

有価証券等の時価総額が小さく、または取引量が少ないとき、市況が急変したとき、取引所等における取引が中止されたときまたは取引所等が閉鎖されたときには、有価証券等の売買価格が通常よりも著しく不利な価格となることや有価証券等の売却ができなくなる場合があります。

このような場合には、ファンドの基準価額が下落し、損失を被る可能性があります。

カントリーリスク

投資対象国・地域等における外貨不足等の経済的要因、政府の資産凍結等の政治的理由、社会情勢の混乱等の影響で、ファンドの基準価額が下落し、損失を被る可能性があります。

特に、新興国は、主要先進国と比較して、経済・政治・社会情勢等で脆弱または不安定な側面があることから、新興国のカントリーリスクは主要先進国に比べ高くなる傾向にあります。

信用リスク

クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト（ケイマン） -アドバンスト・ストラテジー・ファンド（適格機関投資家限定）は、クレディ・スイス・インターナショナル（以下、CSIといいます。）との相対のスワップ取引によってアドバンス運用インデックスへの投資を行います。その際、相手方（CSI）から日々の純資産相当額の担保を受け取ることで、相手方（CSI）の信用リスクの低減を図りますが、相手方（CSI）に倒産や契約不履行その他不測の事態が生じた場合には、当初契約通りの取引が実行できず運用の継続は困難となる場合があります。その場合、将来の投資成果を享受することはできず損失を被ることがあります。また、担保を処分する際に想定した価格で処分できない可能性があることから損失を被る場合があります。

基準価額の変動要因は上記のリスクに限定されるものではありません。

- ・ ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリングオフ）の適用はありません。
- ・ 投資信託は預金商品や保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関が取り扱う投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
- ・ 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益を超過して支払われる場合があるため、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。また、投資者の購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。
- ・ 投資対象とする投資信託証券の取得申込み・解約請求の受付が中止または取消されたとき、取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止その他やむを得ない事情があるときには、取得申込み・解約請求の受付を中止することや、すでに受付けた取得申込み・解約請求の受付を取消することがあります。また、解約代金の支払日が遅延することがあります。
- ・ アドバンス運用インデックスが改廃となった場合等には、ファンドは繰上償還となる場合があります。

< 投資リスクに対する管理体制 >

- ・ 運用委員会において、運用に関する内規の制定および改廃のほか、運用ガイドライン等運用のリスク管理に関する事項を決定します。
- ・ リスク管理部は、投資信託財産の運用の指図につき法令、投資信託協会諸規則、社内規程及び投資信託約款等（以下、「法令諸規則等」という。）に定める運用の指図に関する事項の遵守状況を確認します。

リスク管理部は、原則として日々、次に掲げる方法による検証を行います。

運用の指図に関する帳票の確認

検証システムにより抽出される運用の実施状況に関するデータの確認

その他検証を行うために必要な行為

発注前の検証は、運用実施に関する内規に基づき、発注内容が法令諸規則等に照らして適当であるかどうか伝票又はオーダー・マネジメント・システムのコンプライアンスチェック機能を利用して確認を行います。発注後の検証は、運用指図結果の適法性又は適正性について確認を行います。

- ・ 運用分析会議におけるファンドの運用パフォーマンスの分析・検証・評価や、売買分析会議におけるファンドの組入有価証券の評価損率や格付状況、有価証券売買状況や組入状況の報告等により、全社的に投資リスクを把握し管理を行います。

4【手数料等及び税金】

(1)【申込手数料】

申込金額（取得申込日の翌営業日の基準価額に申込口数を乗じて得た額）に、販売会社が独自に定める手数料率を乗じて得た額

有価証券届出書提出日現在の手数料率の上限は、3.15%（税抜3.0%）です。手数料率は変更となる場合があります。詳細につきましては、販売会社にご確認下さい。

消費税率が8%になった場合は、3.24%となります。

「分配金再投資コース」の取得申込者が、収益分配金の再投資によりファンドを買付ける場合には、無手数料とします。詳細につきましては、販売会社又は委託会社にお問い合わせ下さい。

お問い合わせ先

岡三アセットマネジメント株式会社 カスタマーサービス部 0120-048-214

ホームページ <http://www.okasan-am.jp>

「日本国債アドバンス・オープン（隔月決算型）」もしくは「日本国債アドバンス・オープン（年2回決算型）」の受益者が、各ファンド間でのスイッチング（乗換え）により、同一の販売会社でファンドを買付ける場合には、申込手数料の一部又は全部の割引を受けられる場合があります。詳細につきましては、販売会社にお問い合わせ下さい。

償還乗換等優遇措置の定めのある販売会社で支払いを受けた他のファンドの償還金又は販売会社が定める償還日前一定の期間内における解約代金等をもって取得申込みの場合には、申込手数料の一部又は全部の割引を受けられる場合があります。詳細につきましては、販売会社にお問い合わせ下さい。

(2)【換金（解約）手数料】

ありません。

ただし、ご換金時には、1口当たり、解約請求受付日の翌営業日の基準価額の0.20%が信託財産留保額として控除されます。

(3)【信託報酬等】

信託報酬の総額

各ファンドの信託報酬の総額は、計算期間を通じて毎日、投資信託財産の純資産総額に年率1.5225%（税抜1.45%）を乗じて得た額とします。

消費税率が8%になった場合は、年率1.566%となります。

<実質的な信託報酬の総額>

各ファンドの投資対象とする外国投資信託「クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト(ケイマン) - アドバンスト・ストラテジー・ファンド(適格機関投資家限定)」の運用報酬（信託報酬）は、年率0.80%です。

「国内債券マザーファンド」には、信託報酬はありません。

各ファンドは上記外国投資信託を50%程度組入れて運用を行いますので、ファンドの信託報酬に当該外国投資信託の運用報酬を含めた実質的な信託報酬の総額は、計算期間を通じて毎日、投資信託財産の純資産総額に年率1.9225%（税抜1.85%）程度を乗じて得た額となります。

消費税率が8%になった場合は、年率1.966%となります。

ただし、実質的な信託報酬は目安であり、組入れた投資信託証券の実際の組入比率により変動します。

信託報酬の配分

信託報酬は、「委託会社」、「販売会社」及び「受託会社」の間で次のように配分します。

信託報酬の総額	年率1.45%	（税抜）
内 委託会社	年率0.50%	（税抜）
内 販売会社	年率0.90%	（税抜）
内 受託会社	年率0.05%	（税抜）

信託報酬の支払い時期

毎計算期末または信託終了のとき、投資信託財産中から支弁します。

(4) 【その他の手数料等】

各ファンドの組入る有価証券の売買委託手数料は、受益者の負担とし、投資信託財産中から支弁します。また、投資対象とする投資信託証券の組入る有価証券の売買委託手数料、先物・オプション取引等の売買委託手数料、スワップ取引に係る費用等を間接的にご負担いただきます。

なお、投資対象とする外国投資信託「クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト(ケイマン) - アドバンスト・ストラテジー・ファンド(適格機関投資家限定)」の取得申込み時の手数料はありませんが、解約申込み時の手数料として、ファンド買戻日の買戻し価額に0.40%の率を乗じて得た額がかかります。

また、以下の運営管理費用がかかり、当該外国投資信託の価額に反映されます。

- ・ 管理事務代行報酬：上限年間70,000米ドル
- ・ 受託報酬：上限年間20,000米ドル

- ・登録事務代行報酬：毎月700米ドルおよび1取引当たり20米ドル
- ・その他弁護士費用等

「国内債券マザーファンド」の取得申込み時および解約申込み時の手数料はありません。

各ファンドの財務諸表の監査費用は、計算期間を通じて毎日、投資信託財産の純資産総額に年率0.0126%（税抜0.012%）を乗じて得た額とし、毎計算期末または信託終了のとき、投資信託財産中から支弁します。

消費税率が8%になった場合は、年率0.01296%となります。

各ファンドの解約に伴う支払資金の手当て又は再投資にかかる収益分配金の支払資金の手当てを目的とした借入金の利息は、受益者の負担とし、投資信託財産中から支弁します。

各ファンドの投資信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、受託会社の立替えた立替金の利息は、受益者の負担とし、投資信託財産中から支弁します。なお、投資対象とする投資信託証券の投資信託財産に関する租税、投資信託財産に関する受託事務の処理に要する費用、海外における資産の保管等に要する費用等につきましては、間接的に受益者の負担となります。

上記の他、投資信託約款の規定に基づく運用指図等により生じた費用をご負担いただく場合があります。また、その他の手数料等につきましては、財務諸表の監査費用を除き、運用状況等により変動するものであり、事前に金額もしくはその上限額またはこれらの計算方法を示すことはできません。

（5）【課税上の取扱い】

ファンドは、課税上、株式投資信託として取り扱われます。

公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。（平成26年1月1日以降）

個人受益者に対する課税

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金は、配当所得として、以下の税率による源泉徴収が行われます。確定申告は不要ですが、確定申告による総合課税または申告分離課税のいずれかを選択することもできます。

償還価額および解約価額から取得費（申込手数料および申込手数料に係る消費税等相当額を含みます。）を控除した利益は、譲渡所得となり、以下の税率による申告分離課税が適用されます。ただし、特定口座（源泉徴収選択口座）をご利用の場合には、原則として確定申告は不要です。

平成25年1月1日から平成49年12月31日までは、復興特別所得税（所得税額×2.1%相当額）がかかります。

期間	税率
----	----

平成25年1月1日以降 平成25年12月31日まで	10.147%（所得税7%、復興特別所得税0.147%、地方税3%）
平成26年1月1日以降 平成49年12月31日まで	20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%）
平成50年1月1日以降	20%（所得税15%、地方税5%）

法人受益者に対する課税

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに償還時及び解約時の個別元本超過額については、以下の税率による源泉徴収が行われます。なお、地方税の源泉徴収はありません。また、源泉徴収された所得税は、法人税から控除できます。

平成25年1月1日から平成49年12月31日までは、復興特別所得税（所得税額×2.1%相当額）がかかります。

期間	税率
平成25年1月1日以降 平成25年12月31日まで	7.147%（所得税7%、復興特別所得税0.147%）
平成26年1月1日以降 平成49年12月31日まで	15.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%）
平成50年1月1日以降	15%（所得税15%）

普通分配金、元本払戻金（特別分配金）とは

収益分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」があります。

基準価額（分配落）が受益者の個別元本と同額の場合または上回っている場合には、分配金の全額が普通分配金となります。

基準価額（分配落）が受益者の個別元本を下回っている場合には、その下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）となり、分配金から元本払戻金（特別分配金）を控除した額が普通分配金となります。元本払戻金（特別分配金）は、元本の一部払戻しに相当し、非課税扱いとなります。

個別元本とは

個別元本とは、原則として、受益者毎の信託時の受益権の価額（申込手数料および申込手数料に係る消費税等相当額は含まれません。）をいい、追加信託のつど当該口数により加重平均されます。

ただし、複数の販売会社でファンドを買付けた場合は、販売会社ごとに個別元本の算出が行われます。

また、同一販売会社であっても、複数口座でファンドを買付けた場合には口座ごとに、「分配金受取りコース」と「分配金再投資コース」の両コースでファンドを買付けた場合にはコースごとに、個別元本の算出が行われる場合があります。

受益者が、元本払戻金（特別分配金）を受け取った場合、個別元本は、分配金発生時の個別元本から元本払戻金（特別分配金）を控除した額となります。

少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」をご利用の場合

少額投資非課税制度「NISA（ニーサ）」は、平成26年1月1日以降の非課税制度です。NISAをご利用の場合、毎年、年間100万円の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得及び譲渡所得が5年間非課税となります。ご利用になれるのは、満20歳以上の方で、販売会社で非課税口座を開設するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

その他

- ・ 益金不算入制度、配当控除の適用はありません。税務署等でご確認いただくことをおすすめいたします。
- ・ 買取請求による換金の場合の課税上の取扱い及び損益通算等につきましては、取得申込みを取り扱った販売会社にお問い合わせ下さい。

上記の内容は平成25年9月末日現在の税法に基づくものであり、税法が改正された場合には変更になることがあります。

5【運用状況】

平成25年9月30日現在の運用状況は、以下の通りです。

投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。また、小数点以下第3位を四捨五入しており、合計と合わない場合があります。

(1)【投資状況】

日本国債アドバンス・オープン（隔月決算型）

資産の種類	国 / 地域	時価合計（円）	投資比率（％）
投資信託受益証券	ケイマン	314,168,085	44.53
親投資信託受益証券	日本	333,935,518	47.34
コール・ローン等、その他の資産（負債控除後）		57,366,843	8.13
合計（純資産総額）		705,470,446	100.00

日本国債アドバンス・オープン（年2回決算型）

資産の種類	国 / 地域	時価合計（円）	投資比率（％）
投資信託受益証券	ケイマン	26,112,672	44.72
親投資信託受益証券	日本	25,917,283	44.39
コール・ローン等、その他の資産（負債控除後）		6,358,736	10.89
合計（純資産総額）		58,388,691	100.00

<参考> 国内債券マザーファンド

資産の種類	国 / 地域	時価合計（円）	投資比率（％）
-------	--------	---------	---------

国債証券	日本	448,276,800	96.05
コール・ローン等、その他の資産（負債控除後）		18,452,454	3.95
合計（純資産総額）		466,729,254	100.00

<参考> クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト（ケイマン） - アドバンスト・ストラテジー・ファンド（適格機関投資家限定） アドバンス運用インデックスの状況

		基本構成比率
金利差獲得運用	残存期間の異なる金利間の差の獲得を目指す運用手法	31.15%
金利トレンド運用	金利トレンドから収益獲得を目指す運用手法	40.14%
為替ロング・ショート運用	高金利通貨買いと低金利通貨売りで為替収益を得る運用手法	13.71%
為替の変動率運用	為替変動から収益獲得を目指す運用手法	15.00%
合計		100.00%

アドバンス運用インデックスは、Credit Suisse Advanced Strategy Index JPY Excess Returnを指します。

基本構成比率とは、毎月14日のリバランスの際に決定される比率です。

（2）【投資資産】

【投資有価証券の主要銘柄】

組入銘柄は、上位30銘柄もしくは全銘柄を記載しています。

日本国債アドバンス・オープン（隔月決算型）

国/地域	種類	銘柄名	数量	帳簿価額 単価 (円)	帳簿価額 金額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 金額 (円)	投資 比率 (%)
日本	親投資信託受益証券	国内債券マザーファンド	292,694,819	1.1340	331,915,924	1.1409	333,935,518	47.34
ケイマン	投資信託受益証券	クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト(ケイマン) -アドバンスト・ストラテジー・ファンド(適格機関投資家限定)	38,500	8,235.88	317,081,380	8,160.21	314,168,085	44.53

（種類別投資比率）

種類	投資比率（%）
親投資信託受益証券	47.34
投資信託受益証券	44.53
合計	91.87

日本国債アドバンス・オープン（年2回決算型）

国/地域	種類	銘柄名	数量	帳簿価額 単価 (円)	帳簿価額 金額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 金額 (円)	投資 比率 (%)
ケイマン	投資信託受益証券	クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト(ケイマン) -アドバンスト・ストラテジー・ファンド(適格機関投資家限定)	3,200	8,235.88	26,354,816	8,160.21	26,112,672	44.72
日本	親投資信託受益証券	国内債券マザーファンド	22,716,525	1.1340	25,760,539	1.1409	25,917,283	44.39

（種類別投資比率）

種類	投資比率（％）
投資信託受益証券	44.72
親投資信託受益証券	44.39
合計	89.11

<参考> 国内債券マザーファンド

国/地域	種類	銘柄名	数量	帳簿価額 単価 (円)	帳簿価額 金額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 金額 (円)	利率 (%)	償還期限	投資 比率 (%)
日本	国債証券	第109回利付国債(20年)	70,000,000	106.24	74,368,000	109.84	76,892,200	1.9	2029年3月20日	16.47
日本	国債証券	第300回利付国債(10年)	40,000,000	107.17	42,868,000	106.79	42,717,600	1.5	2019年3月20日	9.15
日本	国債証券	第136回利付国債(20年)	40,000,000	98.75	39,500,000	101.66	40,666,400	1.6	2032年3月20日	8.71
日本	国債証券	第100回利付国債(5年)	40,000,000	100.37	40,150,000	100.50	40,200,800	0.3	2016年9月20日	8.61
日本	国債証券	第328回利付国債(2年)	40,000,000	99.95	39,982,000	100.00	40,003,200	0.1	2015年5月15日	8.57
日本	国債証券	第296回利付国債(10年)	30,000,000	107.00	32,100,000	106.26	31,878,900	1.5	2018年9月20日	6.83
日本	国債証券	第285回利付国債(10年)	30,000,000	106.69	32,007,000	105.37	31,612,800	1.7	2017年3月20日	6.77
日本	国債証券	第314回利付国債(10年)	30,000,000	103.96	31,188,000	104.54	31,362,600	1.1	2021年3月20日	6.72
日本	国債証券	第324回利付国債(10年)	30,000,000	99.81	29,945,700	101.69	30,509,400	0.8	2022年6月20日	6.54
日本	国債証券	第105回利付国債(5年)	20,000,000	100.04	20,008,000	100.14	20,029,400	0.2	2017年6月20日	4.29
日本	国債証券	第60回利付国債(20年)	10,000,000	105.63	10,563,800	106.89	10,689,300	1.4	2022年12月20日	2.29
日本	国債証券	第306回利付国債(10年)	10,000,000	106.58	10,658,000	106.70	10,670,300	1.4	2020年3月20日	2.29
日本	国債証券	第307回利付国債(10年)	10,000,000	105.86	10,586,600	106.10	10,610,400	1.3	2020年3月20日	2.27
日本	国債証券	第309回利付国債(10年)	10,000,000	104.31	10,431,000	104.74	10,474,800	1.1	2020年6月20日	2.24
日本	国債証券	第106回利付国債(5年)	10,000,000	100.29	10,029,000	100.07	10,007,800	0.2	2017年9月20日	2.14
日本	国債証券	第328回利付国債(10年)	10,000,000	100.28	10,028,000	99.50	9,950,900	0.6	2023年3月20日	2.13

（種類別投資比率）

種類	投資比率（％）
国債証券	96.05
合計	96.05

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

(3) 【運用実績】

【純資産の推移】

日本国債アドバンス・オープン（隔月決算型）

	純資産総額		基準価額 (1口当たり)	
	円		円	
第1特定期間末 (平成24年 9月 7日)	3,907,686,561	(分配付)	0.9987	(分配付)
	3,907,686,561	(分配落)	0.9987	(分配落)
第2特定期間末 (平成25年 3月 7日)	1,730,509,514	(分配付)	0.9767	(分配付)
	1,717,791,665	(分配落)	0.9707	(分配落)
第3特定期間末 (平成25年 9月 9日)	723,734,887	(分配付)	0.9204	(分配付)
	717,937,344	(分配落)	0.9144	(分配落)
平成24年 9月末日	4,033,157,705		1.0044	
10月末日	2,624,909,407		0.9917	
11月末日	2,165,691,157		0.9815	
12月末日	2,029,530,890		0.9704	
平成25年 1月末日	1,933,397,594		0.9661	
2月末日	1,780,113,462		0.9755	
3月末日	1,452,564,639		0.9654	
4月末日	1,180,752,853		0.9660	
5月末日	1,085,101,920		0.9527	
6月末日	862,696,550		0.9502	
7月末日	780,410,241		0.9255	
8月末日	733,296,432		0.9074	
9月末日	705,470,446		0.9122	

日本国債アドバンス・オープン（年2回決算型）

	純資産総額		基準価額 (1口当たり)	
	円		円	
第1期計算期間末 (平成24年 9月 7日)	386,634,524	(分配付)	0.9986	(分配付)
	385,473,044	(分配落)	0.9956	(分配落)
第2期計算期間末 (平成25年 3月 7日)	265,595,806	(分配付)	0.9730	(分配付)
	264,776,896	(分配落)	0.9700	(分配落)
第3期計算期間末 (平成25年 9月 9日)	58,716,814	(分配付)	0.9218	(分配付)
	58,525,714	(分配落)	0.9188	(分配落)
平成24年 9月末日	434,558,576		1.0009	
10月末日	342,292,926		0.9880	
11月末日	299,208,213		0.9800	
12月末日	283,107,014		0.9690	
平成25年 1月末日	275,115,521		0.9664	
2月末日	263,226,040		0.9757	

3月末日	119,699,554	0.9656
4月末日	94,036,425	0.9658
5月末日	91,978,992	0.9544
6月末日	58,870,203	0.9534
7月末日	61,172,643	0.9311
8月末日	58,174,167	0.9133
9月末日	58,388,691	0.9166

【分配の推移】

日本国債アドバンス・オープン（隔月決算型）

期間		分配金 (1口当たり)
第1特定期間	自平成24年 4月18日至平成24年 9月 7日	0円
第2特定期間	自平成24年 9月 8日至平成25年 3月 7日	0.0060円
第3特定期間	自平成25年 3月 8日至平成25年 9月 9日	0.0060円

日本国債アドバンス・オープン（年2回決算型）

期間		分配金 (1口当たり)
第1期計算期間	自平成24年 4月18日至平成24年 9月 7日	0.0030円
第2期計算期間	自平成24年 9月 8日至平成25年 3月 7日	0.0030円
第3期計算期間	自平成25年 3月 8日至平成25年 9月 9日	0.0030円

【収益率の推移】

日本国債アドバンス・オープン（隔月決算型）

期間		収益率（%）
第1特定期間	自平成24年 4月18日至平成24年 9月 7日	0.1
第2特定期間	自平成24年 9月 8日至平成25年 3月 7日	2.2
第3特定期間	自平成25年 3月 8日至平成25年 9月 9日	5.2

（注）収益率は期間騰落率です。小数点以下第2位を四捨五入しております（以下同じ）。

日本国債アドバンス・オープン（年2回決算型）

期間		収益率（%）
第1期計算期間	自平成24年 4月18日至平成24年 9月 7日	0.1
第2期計算期間	自平成24年 9月 8日至平成25年 3月 7日	2.3
第3期計算期間	自平成25年 3月 8日至平成25年 9月 9日	5.0

(4) 【設定及び解約の実績】

日本国債アドバンス・オープン(隔月決算型)

期間	設定数量(口)	解約数量(口)
第1特定期間	3,951,981,861	39,400,000
第2特定期間	492,516,454	2,635,420,000
第3特定期間	86,865,270	1,071,392,048

日本国債アドバンス・オープン(年2回決算型)

期間	設定数量(口)	解約数量(口)
第1期計算期間	389,760,000	2,600,000
第2期計算期間	73,200,000	187,390,000
第3期計算期間	8,000,000	217,270,000

(参考情報)

運用実績

日本国債アドバンス・オープン(隔月決算型)

2013年9月30日現在

基準価額・純資産の推移(2012年4月18日~2013年9月30日)



※基準価額は1万円当たり、信託報酬控除後の価額です。
 ※分配金再投資基準価額は、決算時の分配金を本額で再投資したものととして計算しております。
 ※設定時から10年以上経過した場合は、直近10年分を記載しています。

分配金の推移

2013年9月	20円
2013年7月	20円
2013年5月	20円
2013年3月	20円
2013年1月	20円
直近1年累計	120円
設定来累計	120円

※上記分配金は1万円当たり、税引前です。

主な資産の状況

組入ファンド

ファンド名	純資産比率
国内債券マザーファンド	47.34%
クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト(ケイマン) II-アドバンス・ストラテジー・ファンド(適格機関投資家限定)	44.53%

組入上位銘柄

(国内債券マザーファンド)

銘柄名	償還日	利率	純資産比率
第109回利付国債(20年)	2029/03/20	1.900%	16.47%
第300回利付国債(10年)	2019/03/20	1.500%	9.15%
第136回利付国債(20年)	2032/03/20	1.600%	8.71%
第100回利付国債(5年)	2016/09/20	0.300%	8.61%
第328回利付国債(2年)	2015/05/15	0.100%	8.57%

※比率はマザーファンドの純資産総額に対する比率です。

※組入銘柄は、上位5銘柄もしくは全銘柄を記載しています。

クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト(ケイマン) II-アドバンス・ストラテジー・ファンド(適格機関投資家限定)アドバンス運用インデックスの状況

		基本構成比率
金利差獲得運用	残存期間の異なる金利間の差の獲得を目指す運用手法	31.15%
金利トレンド運用	金利トレンドから収益獲得を目指す運用手法	40.14%
為替ロング・ショート運用	高金利通貨買いと低金利通貨売りで為替収益を得る運用手法	13.71%
為替の変動率運用	為替変動から収益獲得を目指す運用手法	15.00%
合計		100.00%

※アドバンス運用インデックスは、Credit Suisse Advanced Strategy Index JPY Excess Returnを指します。
 ※基本構成比率とは、毎月14日のリバランスの際に決定される比率です。

年間収益率の推移



※ファンドにはベンチマークはありません。

※2012年はファンドの設立日から年末まで、2013年は9月末までの実績率を示しています。

※年間収益率は、期間中の基準価額増減および分配金累計(税引前)の合計額を前年末の基準価額で除して算出しています。

- 過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。
- 最新の運用実績は、委託会社のホームページ、または販売会社でご確認ください。

運用実績

2013年9月30日現在

日本国債アドバンス・オープン(年2回決算型)

基準価額・純資産の推移(2012年4月18日~2013年9月30日)



※基準価額は1万円当たり、信託報酬控除後の価額です。

※分配金再投資基準価額は、分配金の再投資を前提として再投資したものと計算してあります。

※設定時から10年以上経過した場合は、算定10年分を記載しています。

分配金の推移

2013年9月	30円
2013年3月	30円
2012年9月	30円
	-
	-
設定来累計	90円

※上記分配金は1万円当たり、税引前です。

主な資産の状況

組入ファンド

ファンド名	純資産比率
クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト(ケイマン)Ⅱ-アドバンス・ストラテジー・ファンド(適格機関投資家限定)	44.72%
国内債券マザーファンド	44.39%

組入上位銘柄

(国内債券マザーファンド)

銘柄名	償還日	利率	純資産比率
第109回利付国債(20年)	2029/03/20	1.900%	16.47%
第300回利付国債(10年)	2019/03/20	1.500%	9.15%
第136回利付国債(20年)	2032/03/20	1.600%	8.71%
第100回利付国債(5年)	2016/09/20	0.300%	8.61%
第328回利付国債(2年)	2015/05/15	0.100%	8.57%

※比率はマザーファンドの純資産総額に対する比率です。

※組入銘柄は、上位5銘柄もしくは全銘柄を記載しています。

クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト(ケイマン)Ⅱ-アドバンス・ストラテジー・ファンド(適格機関投資家限定)アドバンス運用インデックスの状況

		基本構成比率
金利差獲得運用	残存期間の異なる金利間の差の獲得を目指す運用手法	31.15%
金利トレンド運用	金利トレンドから収益獲得を目指す運用手法	40.14%
為替ロング・ショート運用	高金利通貨買いと低金利通貨売りで為替収益を得る運用手法	13.71%
為替の変動率運用	為替変動から収益獲得を目指す運用手法	15.00%
合計		100.00%

※アドバンス運用インデックスは、Credit Suisse Advanced Strategy Index JPY Excess Returnを指します。

※基本構成比率とは、毎月14日のリバランスの際に決定される比率です。

年間収益率の推移



※ファンドにはベンチマークはございません。

※2012年はファンドの設立日から年末まで、2013年は9月末までの実績率を示しています。

※年間収益率は、期間中の基準価額増減および分配金累計(税引前)の合計額を前年末の基準価額で除して算出しています。

過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。
最新の運用実績は、委託会社のホームページ、または販売会社でご確認ください。

第2【管理及び運営】

1【申込（販売）手続等】

取得申込受付日

取得申込みは、申込期間における販売会社の営業日（ただし、委託会社の休業日を除きます。）に行うことができます。

ただし、投資対象とする投資信託証券にかかる取得申込みの受付の中止および取消、取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、取得申込みの受付を中止することや、すでに受付けた取得申込みの受付を取消することがあります。

取得申込不可日

以下に該当する日は、「取得・換金申込不可日」として、取得申込みの受付を行いません。

- ・ ロンドンの銀行の休業日
- ・ 12月24日

「取得・換金申込不可日」につきましては、販売会社又は委託会社にお問い合わせ下さい。また、委託会社のホームページにも、掲載いたします。

取得申込受付時間

原則として、午後3時までとし、販売会社所定の事務手続きが完了した場合に、当日の受付として取り扱います。この時間を過ぎての申込みは、翌営業日（ただし、取得申込不可日を除きます。）の取扱いとなります。

取得申込手続

- ・ 取得申込者は、販売会社に、取得申込と同時にまたはあらかじめ当該取得申込者が受益権の振替を行うための振替機関等の口座を申し出るものとし、当該口座に当該取得申込者に係る口数の増加の記載または記録が行われます。なお、販売会社は、当該取得申込の代金の支払いと引き換えに、当該口座に当該取得申込者に係る口数の増加の記載または記録を行うことができます。

す。委託会社は、分割された受益権について、振替機関等の振替口座簿への新たな記載または記録をするため社債、株式等の振替に関する法律（以下「社振法」といいます。）に定める事項の振替機関への通知を行うものとします。振替機関等は、委託会社から振替機関への通知があった場合、社振法の規定にしたがい、その備える振替口座簿への新たな記載または記録を行います。受託会社は、追加信託により生じた受益権については追加信託のつど、振替機関の定める方法により、振替機関へ当該受益権に係る信託を設定した旨の通知を行います。

- ・ 取得申込方法には、「分配金受取りコース」と「分配金再投資コース」の2つのコースがあります。ファンドからお支払いする収益分配金のお受取りをご希望される取得申込者は「分配金受取りコース」を、収益分配金を自動的に再投資することをご希望される取得申込者は「分配金再投資コース」をお申込み下さい。
- ・ 「分配金再投資コース」を選択された取得申込者は、販売会社との間で、ファンドに係る累積投資約款（別の名称で同様の権利義務関係を規定するものを含みます。）に基づく収益分配金の再投資等に係る契約を結んでいただきます。また、分配金再投資コースで「定時定額購入サービス」をご利用の取得申込者は、販売会社との間で定時定額購入サービスに関する取り決めを行っていただきます。
- ・ 「分配金受取りコース」の申込単位は、1万口以上1万口単位又は1万円以上1円単位、「分配金再投資コース」の申込単位は、1万円以上1円単位、分配金再投資コースで「定時定額購入サービス」をご利用の場合には、1万円以上1千円単位となります。なお、販売会社が別に定める申込単位がある場合は、当該申込単位とします。また、取扱いコース及び申込単位は、販売会社によって異なります。詳細につきましては、販売会社又は委託会社にお問い合わせ下さい。
- ・ 1口当たりの発行価格は、取得申込日の翌営業日の基準価額とします。

なお、「分配金再投資コース」の取得申込者が、ファンドに係る累積投資契約（別の名称で同様の権利義務関係を規定する契約を含みます。）に基づき、収益分配金の再投資によりファンドを買付ける場合は、決算日の基準価額とします。

基準価額は、毎営業日（委託会社の営業日をいいます。）計算し、販売会社又は委託会社にお問い合わせいただければいつでもお知らせします。

- ・ 申込代金は、1口当たりの発行価格に申込口数を乗じて得た申込金額に、申込手数料（消費税等相当額を含みます。）を加算した額です。
- ・ 申込手数料は、申込金額に、販売会社が独自に定める手数料率を乗じて得た額です。

有価証券届出書提出日現在の手数料率の上限は、3.15%（税抜3.0%）です。手数料率は変更となる場合があります。詳細につきましては、販売会社にお問い合わせ下さい。

消費税率が8%になった場合は、3.24%となります。

なお、「分配金再投資コース」の取得申込者が、ファンドに係る累積投資契約（別の名称で同様の権利義務関係を規定する契約を含みます。）に基づき、収益分配金の再投資によりファンドを買付ける場合には、無手数料とします。

「日本国債アドバンス・オープン（隔月決算型）」もしくは「日本国債アドバンス・オープン（年2回決算型）」の受益者が、各ファンド間でのスイッチング（乗換え）により、同一の販売会社でファンドを買付ける場合には、申込手数料の一部又は全部の割引を受けられる場合があります。

また、償還乗換等優遇措置の定めのある販売会社で支払いを受けた他のファンドの償還金又は販売会社が定める償還日前一定の期間内における解約代金等をもって取得申込みの場合には、申込手数料の一部又は全部の割引を受けられる場合があります。

詳細につきましては、販売会社にお問い合わせ下さい。

- ・ 申込代金は、取得申込みを取り扱った販売会社の本・支店等でお支払い下さい。
詳細につきましては、販売会社又は委託会社にお問い合わせ下さい。
- ・ 申込代金の払込期日については、販売会社が定める期日までに販売会社でお支払い下さい。詳細につきましては、販売会社にお問い合わせ下さい。

お問合わせ先

岡三アセットマネジメント株式会社 カスタマーサービス部 0120-048-214
ホームページ <http://www.okasan-am.jp>

2【換金（解約）手続等】

換金申込受付日

受益者は、販売会社の営業日（ただし、委託会社の休業日を除きます。）に、販売会社を通じて、換金の請求をすることができます。

換金申込不可日

以下に該当する日は、「取得・換金申込不可日」として、換金申込みの受付を行いません。

- ・ ロンドンの銀行の休業日
- ・ 12月24日

「取得・換金申込不可日」につきましては、販売会社又は委託会社にお問い合わせ下さい。また、委託会社のホームページにも、掲載いたします。

お問合わせ先

岡三アセットマネジメント株式会社 カスタマーサービス部 0120-048-214
ホームページ <http://www.okasan-am.jp>

換金申込受付時間

原則として、午後3時までとし、販売会社所定の事務手続きが完了した場合に、当日の受付として取り扱います。この時間を過ぎての申込みは、翌営業日（ただし、換金申込不可日を除きます。）の取扱いとなります。

解約請求制による換金手続

- ・ 受益者は、取得申込みを取り扱った販売会社を通じて委託会社に、販売会社の定める単位をもって、解約の請求をすることができます。
解約単位につきましては、販売会社にお問い合わせ下さい。
- ・ 受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して当該受益者の請求に係るこの投資信託契約の一部解約を委託会社が行うのと引き換えに、当該一部解約に係る受益権の口数と同口数の抹消の申請を行うものとし、社振法の規定にしたがい当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます。

- ・ 解約価額は、解約請求受付日の翌営業日の基準価額から当該基準価額に0.20%の率を乗じて得た額を信託財産留保額として控除した価額とします。解約価額については、取得申込みを取り扱った販売会社にお問い合わせ下さい。
- ・ 解約手数料はありません。
- ・ 解約代金は、解約請求受付日から起算して、原則として、7営業日目から販売会社を通じてお支払いします。

なお、投資対象とする投資信託証券にかかる解約請求の受付の中止および取消、取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、解約代金の支払いが遅延する場合があります。

解約請求の受付の中止及び取消

- ・ 投資対象とする投資信託証券にかかる解約請求の受付の中止および取消、取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、解約請求の受付を中止することや、すでに受付けた解約請求の受付を取消することがあります。
- ・ 解約請求の受付が中止された場合には、受益者は当該受付の中止以前に行った当日の解約請求を撤回できます。ただし、受益者がその解約請求を撤回しない場合には、当該解約価額は、当該受付再開後の最初の基準価額の計算日（ただし、換金申込不可日を除きます。）に解約請求を受付けたものとして計算された価額とします。

買取によるご換金については、販売会社にお問い合わせ下さい。

3【資産管理等の概要】

(1)【資産の評価】

基準価額の計算方法

基準価額は、投資信託財産に属する資産を法令及び一般社団法人投資信託協会規則に従って時価または償却原価法により評価して得た投資信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額（以下、「純資産総額」といいます。）を、計算日における受益権総口数で除した金額をいいます。なお、基準価額は、便宜上1万口当たりで表示されることがあります。

投資信託証券の評価

外国投資信託証券は、計算時に知りえる直近の日の価額で評価します。

マザーファンドの評価

ファンドが主要投資対象とするマザーファンドは、マザーファンドの基準価額で評価します。

債券の評価

投資信託証券を通じて投資するわが国の債券は、原則として、日本証券業協会発表の売買参考統計値（平均値）、金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（ただし、売気配相場を除く。）又は価格情報会社の提供する価額等で評価します。

基準価額に関する照会方法等

基準価額は、毎営業日（委託会社の営業日をいいます。）計算し、販売会社又は委託会社にお問い合わせいただければいつでもお知らせします。

お問い合わせ先

岡三アセットマネジメント株式会社 カスタマーサービス部 0120-048-214

ホームページ <http://www.okasan-am.jp>

なお、基準価額は、計算日の翌日付の日本経済新聞に1万口当たりで掲載されます。掲載に関する権利は株式会社日本経済新聞社にあり、掲載されない場合もあります。また、基準価額は、掲載後変更される場合がありますので、販売会社又は委託会社で確認して下さい。

(2) 【保管】

該当事項はありません。

(3) 【信託期間】

信託期間は、平成24年4月18日から平成34年3月7日までとします。

ただし、投資信託契約の解約（繰上償還）の規定により信託を終了させる場合があります。

また、受益者に有利である場合等は、信託期間を延長することがあります。

(4) 【計算期間】

< 隔月決算型 >

計算期間は、原則として、毎年1月8日から3月7日まで、3月8日から5月7日まで、5月8日から7月7日まで、7月8日から9月7日まで、9月8日から11月7日までおよび11月8日から翌年1月7日までとします。

ただし、計算期間終了日に該当する日（以下「該当日」といいます。）が休業日のとき、計算期間終了日は該当日の翌営業日とし、その翌日より次の計算期間が開始されるものとします。

< 年2回決算型 >

計算期間は、原則として、毎年3月8日から9月7日までおよび9月8日から翌年3月7日までとします。

ただし、計算期間終了日に該当する日（以下「該当日」といいます。）が休業日のとき、計算期間終了日は該当日の翌営業日とし、その翌日より次の計算期間が開始されるものとします。

(5) 【その他】

投資信託契約の解約（繰上償還）

- a 委託会社は、信託期間中において、この信託を終了させることが受益者のため有利であると認めるとき、投資信託契約の一部を解約することにより受益権口数が10億口を下回ったとき、ア

ドバンス運用インデックスが改廃となったとき、またはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、この投資信託契約を解約し、信託を終了させることができます。この場合において、委託会社は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届出ます。

- b 委託会社は、aの事項について、書面による決議(以下「書面決議」といいます。)を行います。この場合において、あらかじめ、書面決議の日ならびに投資信託契約の解約の理由などの事項を定め、当該決議の日の2週間前までに、この投資信託契約にかかる知れている受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を発送します。
- c bの書面決議において、受益者(委託会社およびこの信託の投資信託財産にこの信託の受益権が属するときの当該受益権にかかる受益者としての受託会社を除きます。以下同じ。)は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行行使することができます。なお、知れている受益者が議決権を行行使しないときは、当該知れている受益者は書面決議について賛成するものとみなします。
- d bの書面決議は議決権を行行使することができる受益者の半数以上であって、当該受益者の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行います。
- e bからdまでの規定は、委託会社が投資信託契約の解約について提案をした場合において、当該提案につき、この投資信託契約にかかるすべての受益者が書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときには適用しません。また、投資信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であってbからdまでの手続きを行うことが困難な場合には適用しません。

投資信託契約に関する監督官庁の命令

- a 委託会社は、監督官庁よりこの投資信託契約の解約の命令を受けたときは、その命令に従い、投資信託契約を解約し、信託を終了させます。
- b 委託会社は、監督官庁の命令に基づいてこの投資信託約款を変更しようとするときは、投資信託約款の変更等の規定にしたがいます。

委託会社の登録取消等に伴う取扱い

- a 委託会社が監督官庁より登録の取消を受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したときは、委託会社は、この投資信託契約を解約し、信託を終了させます。
- b aの規定にかかわらず、監督官庁がこの投資信託契約に関する委託会社の業務を他の投資信託委託会社に引継ぐことを命じたときは、この信託は、投資信託約款の変更等の書面決議で否決された場合を除き、当該他の投資信託委託会社と受託会社の間において存続します。

委託会社の事業の譲渡および承継に伴う取扱い

- a 委託会社は、事業の全部または一部を譲渡することがあり、これに伴い、この投資信託契約に関する事業を譲渡することがあります。
- b 委託会社は、分割により事業の全部または一部を承継させることがあり、これに伴い、この投資信託契約に関する事業を承継させることがあります。

受託会社の辞任および解任に伴う取扱い

- a 受託会社は、委託会社の承諾を受けてその任務を辞任することができます。受託会社はその任務に違反して投資信託財産に著しい損害を与えたことその他重要な事由があるときは、委託会社または受益者は、裁判所に受託会社の解任を申立てることができます。受託会社が辞任した

場合、または裁判所が受託会社を解任した場合、委託会社は、投資信託約款の変更等の規定にしたがい、新受託会社を選任します。なお、受益者は、上記によって行う場合を除き、受託会社を解任することはできないものとします。

- b 委託会社が新受託会社を選任できないときは、委託会社はこの投資信託契約を解約し、信託を終了させます。

投資信託約款の変更等

- a 委託会社は、受益者の利益のため必要と認めるときまたはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、この投資信託約款を変更することまたはこの信託と他の信託との併合(投資信託及び投資法人に関する法律第16条第2号に規定する「委託者指図型投資信託の併合」をいいます。以下同じ。)を行うことができるものとし、あらかじめ、変更または併合しようとする旨およびその内容を監督官庁に届出ます。なお、この投資信託約款は、この投資信託約款の変更等に定める以外の方法によって変更することができないものとします。
- b 委託会社は、aの事項(投資信託約款の変更事項にあっては、その内容が重大なものに該当する場合に限ります。以下、併合と合わせて「重大な約款の変更等」といいます。)について、書面決議を行います。この場合において、あらかじめ、書面決議の日ならびに重大な約款の変更等の内容およびその理由などの事項を定め、当該決議の日の2週間前までに、この投資信託約款にかかる知っている受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を発送します。
- c bの書面決議において、受益者(委託会社およびこの信託の投資信託財産にこの信託の受益権が属するときの当該受益権にかかる受益者としての受託会社を除きます。以下同じ。)は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行行使することができます。なお、知っている受益者が議決権を行行使しないときは、当該知っている受益者は書面決議について賛成するものとみなします。
- d bの書面決議は議決権を行行使することができる受益者の半数以上であって、当該受益者の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行います。
- e 書面決議の効力は、この信託のすべての受益者に対してその効力を生じます。
- f bからeまでの規定は、委託会社が重大な約款の変更等について提案をした場合において、当該提案につき、この投資信託約款にかかるすべての受益者が書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときには適用しません。
- g aからfまでの規定にかかわらず、この投資信託において併合の書面決議が可決された場合であっても、当該併合にかかる一または複数の他の投資信託において当該併合の書面決議が否決された場合は、当該他の投資信託との併合を行うことはできません。

反対者の買取請求権

投資信託契約の解約または重大な約款の変更等を行う場合には、書面決議において当該解約または重大な約款の変更等に反対した受益者は、受託会社に対し、自己に帰属する受益権を投資信託財産をもって買取るべき旨を請求することができます。

他の受益者の氏名等の開示の請求の制限

受益者は、委託会社または受託会社に対し、「他の受益者の氏名または名称および住所」、
「他の受益者が有する受益権の内容」の開示の請求を行うことはできません。

運用報告書の交付

< 隔月決算型 >

委託会社は、毎特定期間（原則として、毎年3月8日から9月7日まで、9月8日から翌年3月7日までとします。）終了後および償還時に、期中の運用経過等を記載した運用報告書を作成し、知っている受益者に、販売会社を通じて交付します。

< 年2回決算型 >

委託会社は、毎計算期間（原則として、毎年3月8日から9月7日まで、9月8日から翌年3月7日までとします。）終了後および償還時に、期中の運用経過等を記載した運用報告書を作成し、知っている受益者に、販売会社を通じて交付します。

公告

委託会社が受益者に対してする公告は、電子公告の方法により行い、次のアドレスに掲載します。

<http://www.okasan-am.jp>

なお、電子公告による公告をすることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合の公告は、日本経済新聞に掲載します。

信託事務の再信託

受託会社は、ファンドに係る信託事務の処理の一部について日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社と再信託契約を締結し、これを委託することができます。この場合、日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社は、再信託契約に基づいて所定の事務を行います。

関係法人との契約の更改等に関する手続等

販売会社との契約更改

委託会社は、販売会社との間の「投資信託受益権の取扱い等に関する契約（別の名称で同様の権利義務関係を規定する契約を含みます。）」に基づき、受益権の募集の取扱い等を販売会社に委託しています。

この契約の有効期間は、契約締結日から1年で、期間満了の3ヵ月前までに委託会社又は販売会社から別段の申し出が無いときは自動的に1年間更新され、その後も同様とします。

変更内容の開示

販売会社との契約または投資信託約款を変更した場合において、委託会社に変更内容について速やかに開示する必要があると認めるときは、有価証券届出書の訂正届出書を関東財務局長に提出することにより、変更内容を開示します。

4【受益者の権利等】

ファンドの受益権

受益権は、その取得申込口数に応じて、取得申込者に帰属します。

受益権は、信託の日時を異にすることにより差異を生ずることはありません。

収益分配金に対する請求権

- a 受益者は、ファンドに係る収益分配金を持分に応じて請求する権利を有します。
- b 収益分配金は、計算期間終了日から起算して、原則として、5営業日までに販売会社を通じて受益者に支払いを開始します。
- c 上記bの規定にかかわらず、累積投資契約に基づいて収益分配金を再投資する受益者に対しては、原則として、毎計算期間終了日の翌営業日に、収益分配金が販売会社に交付されます。販売会社は、受益者に対し、計算期間終了日の基準価額をもって収益分配金の再投資に係る受益権の売付を行います。
- d 受益者が、収益分配金について支払い開始日から5年間その支払いを請求しないときは、その権利を失い、受託会社から交付を受けた金銭は、委託会社に帰属します。

収益分配金は、決算日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（当該収益分配金に係る決算日以前において一部解約が行われた受益権に係る受益者を除きます。また、当該収益分配金に係る決算日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者としします。）にお支払いします。また、分配金再投資コースの場合、再投資により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。

償還金に対する請求権

- a 受益者は、ファンドに係る償還金を持分に応じて請求する権利を有します。
- b 償還金は、償還日（償還日が休業日の場合は翌営業日）から起算して、原則として、5営業日までに販売会社を通じて受益者に支払いを開始します。
- c 受益者が、償還金について支払開始日から10年間その支払いを請求しないときは、その権利を失い、受託会社から交付を受けた金銭は、委託会社に帰属します。

償還金は、償還日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（償還日以前において一部解約が行われた受益権に係る受益者を除きます。また、当該償還日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者としします。）にお支払いします。

換金に係る権利

受益者は、委託会社に対して、解約請求を行う権利を有します。

書類の閲覧権

受益者は、委託会社に対して、当該受益者に係る投資信託財産に関する書類の閲覧又は謄写を請求することができます。

第3【ファンドの経理状況】

日本国債アドバンス・オープン（隔月決算型）

1. 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づいて作成しております。
なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。
2. 当ファンドの計算期間は6ヵ月未満であるため、財務諸表は6ヵ月毎に作成しております。
3. 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3特定期間（平成25年3月8日から平成25年9月9日まで）の財務諸表について、東陽監査法人により監査を受けております。

1【財務諸表】

【日本国債アドバンス・オープン（隔月決算型）】

(1)【貸借対照表】

(単位：円)

	第2特定期間末 (平成25年 3 月 7 日現在)	第3特定期間末 (平成25年 9 月 9 日現在)
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	131,156,689	53,567,559
投資信託受益証券	787,105,020	341,789,020
親投資信託受益証券	822,911,033	331,915,924
未収入金	36,252,320	-
未収利息	318	71
流動資産合計	1,777,425,380	727,272,574
資産合計	1,777,425,380	727,272,574
負債の部		
流動負債		
未払収益分配金	3,539,356	1,570,303
未払解約金	51,362,030	5,723,480
未払受託者報酬	161,847	69,818
未払委託者報酬	4,531,658	1,954,893
その他未払費用	38,824	16,736
流動負債合計	59,633,715	9,335,230
負債合計	59,633,715	9,335,230
純資産の部		
元本等		
元本	*1 1,769,678,315	*1 785,151,537
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	51,886,650	67,214,193
（分配準備積立金）	27,149,961	7,685,802
元本等合計	1,717,791,665	717,937,344
純資産合計	*3 1,717,791,665	*3 717,937,344
負債純資産合計	1,777,425,380	727,272,574

(2) 【損益及び剰余金計算書】

(単位：円)

	第2特定期間		第3特定期間	
	自	平成24年 9 月 8 日 至 平成25年 3 月 7 日	自	平成25年 3 月 8 日 至 平成25年 9 月 9 日
営業収益				
受取利息		79,321		27,500
有価証券売買等損益		42,977,534		45,483,799
営業収益合計		42,898,213		45,456,299
営業費用				
受託者報酬		657,643		284,759
委託者報酬		18,413,902		7,973,222
その他費用		157,776		68,280
営業費用合計		19,229,321		8,326,261
営業利益又は営業損失()		62,127,534		53,782,560
経常利益又は経常損失()		62,127,534		53,782,560
当期純利益又は当期純損失()		62,127,534		53,782,560
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額()		10,144,915		10,539,828
期首剰余金又は期首欠損金()		4,895,300		51,886,650
剰余金増加額又は欠損金減少額		22,625,499		38,336,547
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		22,271,711		38,336,547
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		353,788		-
剰余金減少額又は欠損金増加額		4,916,381		4,623,815
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		4,916,381		4,623,815
分配金		*1 12,717,849		*1 5,797,543
期末剰余金又は期末欠損金()		51,886,650		67,214,193

(3) 【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

期 別	第3特定期間 自 平成25年 3月 8日 至 平成25年 9月 9日
項 目	
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価に当たっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。 投資信託受益証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価に当たっては、投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。
2. 収益及び費用の計上基準	受取配当金 原則として、投資信託の分配落ち日に計上しております。 有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	計算期間の取扱い 当ファンドの計算期間は、6ヵ月未満であるため財務諸表を6ヵ月毎に作成しており、当特定期間末が休日のため、平成25年 3月 8日から平成25年 9月 9日までを特定期間としております。

(貸借対照表に関する注記)

第2特定期間末 (平成25年 3月 7日現在)	第3特定期間末 (平成25年 9月 9日現在)
*1. 当該特定期間の末日における受益権の総数 1,769,678,315口	*1. 当該特定期間の末日における受益権の総数 785,151,537口
2. 投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第10号に規定する額 元本の欠損 51,886,650円	2. 投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第10号に規定する額 元本の欠損 67,214,193円
*3. 当該特定期間の末日における1単位当たりの純資産の額 1口当たりの純資産額 0.9707円 (10,000口当たりの純資産額 9,707円)	*3. 当該特定期間の末日における1単位当たりの純資産の額 1口当たりの純資産額 0.9144円 (10,000口当たりの純資産額 9,144円)

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

第2特定期間 自 平成24年 9月 8日 至 平成25年 3月 7日	第3特定期間 自 平成25年 3月 8日 至 平成25年 9月 9日
*1. 分配金の計算過程 第3計算期間(平成24年9月8日～平成24年11月7日)	*1. 分配金の計算過程 第6計算期間(平成25年3月8日～平成25年5月7日)
費用控除後の配当等収益額 A - 円	費用控除後の配当等収益額 A - 円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額 B - 円	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額 B - 円
収益調整金額 C 12,554,819円	収益調整金額 C 9,195,124円
分配準備積立金額 D 55,909,390円	分配準備積立金額 D 19,164,237円
当ファンドの分配対象収益額 E=A+B+C+D 68,464,209円	当ファンドの分配対象収益額 E=A+B+C+D 28,359,361円
当ファンドの期末残存口数 F 2,505,520,460口	当ファンドの期末残存口数 F 1,221,090,110口
10,000口当たり収益分配対象額 G=E/F*10,000 273円	10,000口当たり収益分配対象額 G=E/F*10,000 232円
10,000口当たり分配金額 H 20円	10,000口当たり分配金額 H 20円

収益分配金金額	$I=F*H/10,000$	5,011,040円	収益分配金金額	$I=F*H/10,000$	2,442,180円
第4計算期間(平成24年11月8日~平成25年1月7日)			第7計算期間(平成25年5月8日~平成25年7月8日)		
費用控除後の配当等収益額	A	-円	費用控除後の配当等収益額	A	-円
費用控除後・繰越欠損金補填後の 有価証券売買等損益額	B	-円	費用控除後・繰越欠損金補填後の 有価証券売買等損益額	B	-円
収益調整金額	C	13,883,516円	収益調整金額	C	6,884,644円
分配準備積立金額	D	39,996,063円	分配準備積立金額	D	12,540,499円
当ファンドの分配対象収益額	$E=A+B+C+D$	53,879,579円	当ファンドの分配対象収益額	$E=A+B+C+D$	19,425,143円
当ファンドの期末残存口数	F	2,083,726,938口	当ファンドの期末残存口数	F	892,530,466口
10,000口当たり収益分配対象額	$G=E/F*10,000$	258円	10,000口当たり収益分配対象額	$G=E/F*10,000$	217円
10,000口当たり分配金額	H	20円	10,000口当たり分配金額	H	20円
収益分配金金額	$I=F*H/10,000$	4,167,453円	収益分配金金額	$I=F*H/10,000$	1,785,060円
第5計算期間(平成25年1月8日~平成25年3月7日)			第8計算期間(平成25年7月9日~平成25年9月9日)		
費用控除後の配当等収益額	A	491,946円	費用控除後の配当等収益額	A	-円
費用控除後・繰越欠損金補填後の 有価証券売買等損益額	B	-円	費用控除後・繰越欠損金補填後の 有価証券売買等損益額	B	-円
収益調整金額	C	12,638,137円	収益調整金額	C	6,501,435円
分配準備積立金額	D	30,197,371円	分配準備積立金額	D	9,256,105円
当ファンドの分配対象収益額	$E=A+B+C+D$	43,327,454円	当ファンドの分配対象収益額	$E=A+B+C+D$	15,757,540円
当ファンドの期末残存口数	F	1,769,678,315口	当ファンドの期末残存口数	F	785,151,537口
10,000口当たり収益分配対象額	$G=E/F*10,000$	244円	10,000口当たり収益分配対象額	$G=E/F*10,000$	200円
10,000口当たり分配金額	H	20円	10,000口当たり分配金額	H	20円
収益分配金金額	$I=F*H/10,000$	3,539,356円	収益分配金金額	$I=F*H/10,000$	1,570,303円

(金融商品に関する注記)

1. 金融商品の状況に関する事項

期 別	第2特定期間 自 平成24年 9月 8日 至 平成25年 3月 7日	第3特定期間 自 平成25年 3月 8日 至 平成25年 9月 9日
項 目		
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは証券投資信託であり、信託約款に規定する「運用の基本方針」に従い、有価証券等の金融商品を投資対象として運用することを目的としております。	同 左
2. 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドは、主として、売買目的の有価証券を保有しております。保有する有価証券の詳細は、「(4) 附属明細表」に記載しております。これらは、価格変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク等の市場リスク、信用リスク、カントリーリスク及び流動性リスク等を有しております。その他、保有するコール・ローン等の金銭債権及び金銭債務につきましては、信用リスク等を有しております。	同 左

3. 金融商品に係るリスク管理体制	当ファンドの委託会社の運用委員会において、運用に関する内規の制定及び改廃、運用ガイドライン等運用のリスク管理に関する事項の決定を行うほか、リスク管理部及びコンプライアンス部において、「運用の指図に関する検証規程」に基づき、投資信託財産の運用の指図について、法令、投資信託協会諸規則、社内規程及び投資信託約款に定める運用の指図に関する事項の遵守状況を確認しております。また、運用分析会議におけるファンドの運用パフォーマンスの分析・検証・評価や、売買分析会議におけるファンドの組入有価証券の評価損率や格付状況、有価証券売買状況や組入状況の報告等により、全社的に投資リスクを把握し管理を行っております。	同 左
-------------------	--	-----

2. 金融商品の時価に関する事項

項 目	期 別 第2特定期間末 (平成25年 3月 7日現在)	第3特定期間末 (平成25年 9月 9日現在)
1. 貸借対照表額、時価及び差額	貸借対照表上の金融商品は原則として全て時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。	同 左
2. 時価の算定方法	時価の算定方法は、「重要な会計方針に係る事項に関する注記」に記載しております。この他、コール・ローン等は短期間で決済され、時価は帳簿価格と近似していることから、当該帳簿価格を時価としております。	同 左

(関連当事者との取引に関する注記)

第2特定期間 自 平成24年 9月 8日 至 平成25年 3月 7日	第3特定期間 自 平成25年 3月 8日 至 平成25年 9月 9日
該当事項はありません。	同 左

(重要な後発事象に関する注記)

第3特定期間 自 平成25年 3月 8日 至 平成25年 9月 9日
該当事項はありません。

(その他の注記)

1. 元本の移動

第2特定期間末 (平成25年 3月 7日現在)		第3特定期間末 (平成25年 9月 9日現在)	
投資信託財産に係る元本の状況		投資信託財産に係る元本の状況	
期首元本額	3,912,581,861円	期首元本額	1,769,678,315円
期中追加設定元本額	492,516,454円	期中追加設定元本額	86,865,270円
期中一部解約元本額	2,635,420,000円	期中一部解約元本額	1,071,392,048円

2. 有価証券関係

売買目的有価証券の最終の計算期間の損益に含まれた評価差額

第2特定期間末（平成25年3月7日現在）

（単位：円）

種 類	最終の計算期間の損益に含まれた評価差額
投資信託受益証券	3,070,750
親投資信託受益証券	9,767,274
合 計	6,696,524

第3特定期間末（平成25年9月9日現在）

（単位：円）

種 類	最終の計算期間の損益に含まれた評価差額
投資信託受益証券	22,217,025
親投資信託受益証券	3,102,564
合 計	19,114,461

3. デリバティブ取引関係

該当事項はありません。

(4) 【附属明細表】

1. 有価証券明細表

株式

該当事項はありません。

株式以外の有価証券

種類	通貨	銘柄	券面総額	評価額	備考
投資信託受益証券	日本円	クレディ・スイス・ユニバーサル・トラ スト（ケイマン） - アドバンスト・スト ラテジー・ファンド（適格機関投資家限 定）	41,500	341,789,020	
	計	銘柄数：1	41,500	341,789,020	
		組入時価比率：47.6%		100.0%	
	投資信託受益証 券合計			341,789,020	
親投資信託受益証券	日本円	国内債券マザーファンド	292,694,819	331,915,924	
	計	銘柄数：1	292,694,819	331,915,924	
		組入時価比率：46.2%		100.0%	
	親投資信託受益 証券合計			331,915,924	
	合計			673,704,944	

(注) 1. 比率は左より組入時価の純資産に対する比率、及び各小計欄の各合計金額に対する比率であります。
2. 親投資信託受益証券及び投資信託受益証券の券面総額欄には、口数を表示しております。

2. デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等、時価の状況表

該当事項はありません。

日本国債アドバンス・オープン（年2回決算型）

1. 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づいて作成しております。
なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。
2. 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3計算期間（平成25年3月8日から平成25年9月9日まで）の財務諸表について、東陽監査法人により監査を受けております。

【日本国債アドバンス・オープン（年2回決算型）】

(1) 【貸借対照表】

(単位：円)

	第2期 (平成25年 3 月 7 日現在)	第3期 (平成25年 9 月 9 日現在)
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	19,585,071	7,300,728
投資信託受益証券	124,662,876	26,354,816
親投資信託受益証券	123,806,217	25,760,539
未収利息	47	9
流動資産合計	268,054,211	59,416,092
資産合計	268,054,211	59,416,092
負債の部		
流動負債		
未払収益分配金	818,910	191,100
未払受託者報酬	84,084	23,916
未払委託者報酬	2,354,199	669,683
その他未払費用	20,122	5,679
流動負債合計	3,277,315	890,378
負債合計	3,277,315	890,378
純資産の部		
元本等		
元本	*1 272,970,000	*1 63,700,000
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	8,193,104	5,174,286
（分配準備積立金）	1,749,258	356,580
元本等合計	264,776,896	58,525,714
純資産合計	*3 264,776,896	*3 58,525,714
負債純資産合計	268,054,211	59,416,092

(2) 【損益及び剰余金計算書】

(単位：円)

	第2期		第3期	
	自 平成24年 9 月 8 日 至 平成25年 3 月 7 日		自 平成25年 3 月 8 日 至 平成25年 9 月 9 日	
営業収益				
受取利息		9,530		4,444
有価証券売買等損益		5,570,930		4,212,808
営業収益合計		5,561,400		4,208,364
営業費用				
受託者報酬		84,084		23,916
委託者報酬		2,354,199		669,683
その他費用		20,122		5,679
営業費用合計		2,458,405		699,278
営業利益又は営業損失()		8,019,805		4,907,642
経常利益又は経常損失()		8,019,805		4,907,642
当期純利益又は当期純損失()		8,019,805		4,907,642
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額()		1,612,809		1,839,117
期首剰余金又は期首欠損金()		1,686,956		8,193,104
剰余金増加額又は欠損金減少額		1,046,873		6,725,643
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		1,046,873		6,725,643
剰余金減少額又は欠損金増加額		327,115		447,200
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		327,115		447,200
分配金		*1 818,910		*1 191,100
期末剰余金又は期末欠損金()		8,193,104		5,174,286

(3) 【注記表】

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

項 目	期 別
	第3期 自 平成25年 3月 8日 至 平成25年 9月 9日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価に当たっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。 投資信託受益証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価に当たっては、投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。
2. 収益及び費用の計上基準	受取配当金 原則として、投資信託の分配落ち日に計上しております。 有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	計算期間の取扱い 当ファンドの計算期間は、当期末が休日のため、平成25年 3月 8日から平成25年 9月 9日までとなっております。

（貸借対照表に関する注記）

第2期 (平成25年 3月 7日現在)	第3期 (平成25年 9月 9日現在)
*1. 当該計算期間の末日における受益権の総数 272,970,000口	*1. 当該計算期間の末日における受益権の総数 63,700,000口
2. 投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第10号に規定する額 元本の欠損 8,193,104円	2. 投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第10号に規定する額 元本の欠損 5,174,286円
*3. 当該計算期間の末日における1単位当たりの純資産の額 1口当たりの純資産額 0.9700円 (10,000口当たりの純資産額 9,700円)	*3. 当該計算期間の末日における1単位当たりの純資産の額 1口当たりの純資産額 0.9188円 (10,000口当たりの純資産額 9,188円)

（損益及び剰余金計算書に関する注記）

第2期 自 平成24年 9月 8日 至 平成25年 3月 7日	第3期 自 平成25年 3月 8日 至 平成25年 9月 9日
*1. 分配金の計算過程	*1. 分配金の計算過程
費用控除後の配当等収益額 A - 円	費用控除後の配当等収益額 A - 円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額 B - 円	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額 B - 円
収益調整金額 C 2,256,658円	収益調整金額 C 597,928円
分配準備積立金額 D 2,568,168円	分配準備積立金額 D 547,680円
当ファンドの分配対象収益額 E=A+B+C+D 4,824,826円	当ファンドの分配対象収益額 E=A+B+C+D 1,145,608円
当ファンドの期末残存口数 F 272,970,000口	当ファンドの期末残存口数 F 63,700,000口
10,000口当たり収益分配対象額 G=E/F*10,000 176円	10,000口当たり収益分配対象額 G=E/F*10,000 179円
10,000口当たり分配金額 H 30円	10,000口当たり分配金額 H 30円

収益分配金金額	I=F*H/10,000	818,910円	収益分配金金額	I=F*H/10,000	191,100円
---------	--------------	----------	---------	--------------	----------

(金融商品に関する注記)

1. 金融商品の状況に関する事項

期 別	第2期 自 平成24年 9月 8日 至 平成25年 3月 7日	第3期 自 平成25年 3月 8日 至 平成25年 9月 9日
項 目		
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは証券投資信託であり、信託約款に規定する「運用の基本方針」に従い、有価証券等の金融商品を投資対象として運用することを目的としております。	同 左
2. 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドは、主として、売買目的の有価証券を保有しております。保有する有価証券の詳細は、「(4) 附属明細表」に記載しております。これらは、価格変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク等の市場リスク、信用リスク、カントリーリスク及び流動性リスク等を有しております。その他、保有するコール・ローン等の金銭債権及び金銭債務につきましては、信用リスク等を有しております。	同 左
3. 金融商品に係るリスク管理体制	当ファンドの委託会社の運用委員会において、運用に関する内規の制定及び改廃、運用ガイドライン等運用のリスク管理に関する事項の決定を行うほか、リスク管理部及びコンプライアンス部において、「運用の指図に関する検証規程」に基づき、投資信託財産の運用の指図について、法令、投資信託協会諸規則、社内規程及び投資信託約款に定める運用の指図に関する事項の遵守状況を確認しております。また、運用分析会議におけるファンドの運用パフォーマンスの分析・検証・評価や、売買分析会議におけるファンドの組入有価証券の評価損率や格付状況、有価証券売買状況や組入状況の報告等により、全社的に投資リスクを把握し管理を行っております。	同 左

2. 金融商品の時価に関する事項

期 別	第2期 (平成25年 3月 7日現在)	第3期 (平成25年 9月 9日現在)
項 目		
1. 貸借対照表額、時価及び差額	貸借対照表上の金融商品は原則として全て時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。	同 左
2. 時価の算定方法	時価の算定方法は、「重要な会計方針に係る事項に関する注記」に記載しております。この他、コール・ローン等は短期間で決済され、時価は帳簿価格と近似していることから、当該帳簿価格を時価としております。	同 左

(関連当事者との取引に関する注記)

第2期 自 平成24年 9月 8日 至 平成25年 3月 7日	第3期 自 平成25年 3月 8日 至 平成25年 9月 9日
該当事項はありません。	同 左

（重要な後発事象に関する注記）

第3期 自 平成25年 3月 8日 至 平成25年 9月 9日
該当事項はありません。

（その他の注記）

1. 元本の移動

第2期 (平成25年 3月 7日現在)	第3期 (平成25年 9月 9日現在)
投資信託財産に係る元本の状況	投資信託財産に係る元本の状況
期首元本額 387,160,000円	期首元本額 272,970,000円
期中追加設定元本額 73,200,000円	期中追加設定元本額 8,000,000円
期中一部解約元本額 187,390,000円	期中一部解約元本額 217,270,000円

2. 有価証券関係

売買目的有価証券の当計算期間の損益に含まれた評価差額

第2期（自 平成24年9月8日 至 平成25年3月7日）

(単位：円)

種 類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
投資信託受益証券	5,711,530
親投資信託受益証券	1,502,132
合 計	4,209,398

第3期（自 平成25年3月8日 至 平成25年9月9日）

(単位：円)

種 類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
投資信託受益証券	2,763,520
親投資信託受益証券	40,891
合 計	2,804,411

3. デリバティブ取引関係

該当事項はありません。

（４）【附属明細表】

1. 有価証券明細表

株式

該当事項はありません。

株式以外の有価証券

種類	通貨	銘柄	券面総額	評価額	備考
投資信託受益証券	日本円	クレディ・スイス・ユニバーサル・トラ スト(ケイマン) -アドバンスト・スト ラテジー・ファンド(適格機関投資家限 定)	3,200	26,354,816	
	計	銘柄数：1	3,200	26,354,816	
		組入時価比率：45.0%		100.0%	
	投資信託受益証 券合計			26,354,816	
親投資信託受益証券	日本円	国内債券マザーファンド	22,716,525	25,760,539	
	計	銘柄数：1	22,716,525	25,760,539	
		組入時価比率：44.0%		100.0%	
	親投資信託受益 証券合計			25,760,539	
	合計			52,115,355	

- (注) 1.比率は左より組入時価の純資産に対する比率、及び各小計欄の各合計金額に対する比率であります。
2.親投資信託受益証券及び投資信託受益証券の券面総額欄には、口数を表示しております。

2.デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等、時価の状況表

該当事項はありません。

< 参考 >

「日本国債アドバンス・オープン(隔月決算型)/(年2回決算型)」は、「国内債券マザーファンド」受益証券を主要投資対象としております。貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」は、当該マザーファンドの受益証券です。

国内債券マザーファンドの経理状況

マザーファンドの経理状況は参考情報であり、監査証明の対象ではありません。

国内債券マザーファンド

[貸借対照表]

(単位:円)

科 目	期 別	注記番 号	平成25年 3月 7日現在	平成25年 9月 9日現在
			金額	金額
資産の部				
流動資産				
コール・ローン			5,178,189	16,005,426
国債証券			983,913,800	445,716,900
未収入金			26,178,750	-
未収利息			5,436,791	2,136,975
前払費用			39,671	44,600
流動資産合計			1,020,747,201	463,903,901
資産合計			1,020,747,201	463,903,901
純資産の部				
元本等				

元本			
元本	*1	897,470,050	409,075,509
剰余金			
剰余金		123,277,151	54,828,392
純資産合計	*2	1,020,747,201	463,903,901
負債・純資産合計		1,020,747,201	463,903,901

[注記表]

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

項 目	期 別	自 平成25年 3月 8日 至 平成25年 9月 9日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法		国債証券 個別法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価に当たっては、金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（ただし、売気配相場は使用しない）、又は価格情報会社の提供する価額で評価しております。ただし、償還日までの残存期間が1年以内の債券について、価格変動性が限定的で、償却原価法による評価が合理的であり、かつ受益者の利益を害しないと委託会社が判断した場合は、償却原価法によって評価しております。
2. 収益及び費用の計上基準		有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項		計算期間の取扱い 当ファンドの計算期間は、日本国債アドバンス・オープン（隔月決算型）/（年2回決算型）の特定期間/計算期間に合わせるため、平成25年 3月 8日から平成25年 9月 9日までとなっております。

(貸借対照表に関する注記)

平成25年 3月 7日現在		平成25年 9月 9日現在	
*1. 当該計算期間の末日における受益権の総数	897,470,050口	*1. 当該計算期間の末日における受益権の総数	409,075,509口
*2. 当該計算期間の末日における1単位当たりの純資産の額	1口当たりの純資産額 1.1374円 (10,000口当たりの純資産額 11,374円)	*2. 当該計算期間の末日における1単位当たりの純資産の額	1口当たりの純資産額 1.1340円 (10,000口当たりの純資産額 11,340円)

(金融商品に関する注記)

1. 金融商品の状況に関する事項

項 目	期 別	自 平成24年 9月 8日 至 平成25年 3月 7日	自 平成25年 3月 8日 至 平成25年 9月 9日
1. 金融商品に対する取組方針		当ファンドは証券投資信託であり、信託約款に規定する「運用の基本方針」に従い、有価証券等の金融商品を投資対象として運用することを目的としております。	同 左

2. 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドは、主として、売買目的の有価証券を保有しております。保有する有価証券の詳細は、「附属明細表」に記載しております。これらは、金利変動リスク等の市場リスク、信用リスク及び流動性リスク等を有しております。その他、保有するコール・ローン等の金銭債権及び金銭債務につきましては、信用リスク等を有しております。	同 左
3. 金融商品に係るリスク管理体制	当ファンドの委託会社の運用委員会において、運用に関する内規の制定及び改廃、運用ガイドライン等運用のリスク管理に関する事項の決定を行うほか、リスク管理部及びコンプライアンス部において、「運用の指図に関する検証規程」に基づき、投資信託財産の運用の指図について、法令、投資信託協会諸規則、社内規程及び投資信託約款に定める運用の指図に関する事項の遵守状況を確認しております。また、運用分析会議におけるファンドの運用パフォーマンスの分析・検証・評価や、売買分析会議におけるファンドの組入有価証券の評価損率や格付状況、有価証券売買状況や組入状況の報告等により、全社的に投資リスクを把握し管理を行っております。	同 左

2. 金融商品の時価に関する事項

項目	期 別 平成25年 3月 7日現在	平成25年 9月 9日現在
1. 貸借対照表額、時価及び差額	貸借対照表上の金融商品は原則として全て時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。	同 左
2. 時価の算定方法	時価の算定方法は、「重要な会計方針に係る事項に関する注記」に記載しております。この他、コール・ローン等は短期間で決済され、時価は帳簿価格と近似していることから、当該帳簿価格を時価としております。	同 左

(その他の注記)

1. 元本の移動

(単位：円)

平成25年 3月 7日現在	
投資信託財産に係る元本の状況	
期首	平成24年 9月 8日
期首元本額	1,912,302,242
期首より平成25年 3月 7日までの追加設定元本額	123,978,540
期首より平成25年 3月 7日までの一部解約元本額	1,138,810,732
期末元本額	897,470,050
平成25年 3月 7日現在の元本の内訳(＊)	
世界9 資産分散ファンド(投資比率変動型)	65,117,974
日本国債アドバンス・オープン(隔月決算型)	723,501,876

日本国債アドバンス・オープン(年2回決算型)

108,850,200

(単位:円)

平成25年 9月 9日現在	
投資信託財産に係る元本の状況	
期首	平成25年 3月 8日
期首元本額	897,470,050
期首より平成25年 9月 9日までの追加設定元本額	34,759,285
期首より平成25年 9月 9日までの一部解約元本額	523,153,826
期末元本額	409,075,509
平成25年 9月 9日現在の元本の内訳(＊)	
世界9 資産分散ファンド(投資比率変動型)	93,664,165
日本国債アドバンス・オープン(隔月決算型)	292,694,819
日本国債アドバンス・オープン(年2回決算型)	22,716,525

＊は当該親投資信託受益証券を投資対象とする証券投資信託毎の元本額

2. 有価証券関係

売買目的有価証券の当計算期間の損益に含まれた評価差額

平成25年3月7日現在

(単位:円)

種 類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
国債証券	7,567,100
合 計	7,567,100

平成25年9月9日現在

(単位:円)

種 類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
国債証券	1,303,800
合 計	1,303,800

3. デリバティブ取引関係

該当事項はありません。

[附属明細表]

1. 有価証券明細表

株式

該当事項はありません。

株式以外の有価証券

種類	通貨	銘柄	券面総額	評価額	備考
国債証券	日本円	第328回利付国債(2年)	40,000,000	39,996,400	
		第100回利付国債(5年)	40,000,000	40,198,800	
		第105回利付国債(5年)	20,000,000	20,003,600	

		第106回利付国債（5年）	10,000,000	9,996,000	
		第285回利付国債（10年）	30,000,000	31,606,200	
		第296回利付国債（10年）	30,000,000	31,836,900	
		第300回利付国債（10年）	40,000,000	42,629,600	
		第306回利付国債（10年）	10,000,000	10,638,800	
		第307回利付国債（10年）	10,000,000	10,575,200	
		第309回利付国債（10年）	10,000,000	10,437,400	
		第314回利付国債（10年）	30,000,000	31,191,600	
		第324回利付国債（10年）	30,000,000	30,335,700	
		第328回利付国債（10年）	10,000,000	9,884,200	
		第60回利付国債（20年）	10,000,000	10,628,100	
		第109回利付国債（20年）	70,000,000	75,815,600	
		第136回利付国債（20年）	40,000,000	39,942,800	
	計	銘柄数：16	430,000,000	445,716,900	
		組入時価比率：96.1%		100.0%	
	合計			445,716,900	

(注) 比率は左より組入時価の純資産に対する比率、及び小計欄の合計金額に対する比率であります。

2. デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等、時価の状況表

該当事項はありません。

< 参考 >

クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト（ケイマン） - アドバンスト・ストラテジー・ファンド
（適格機関投資家限定）

以下は、クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト（ケイマン） - アドバンスト・ストラテジー・ファンド（適格機関投資家限定）の財務諸表（2012年10月31日現在）の抜粋を、岡三アセットマネジメントが翻訳したものです。

財務諸表（2012年10月31日現在）

単位：円

資産	
担保付スワップ	1,346,718,821
未実現取引	56,035,440
未収利息	285,280
資産合計	<u>1,403,039,541</u>
負債	
未払償還金	56,035,440
未払代手手数料	285,280
負債合計	<u>56,320,720</u>
純資産総額	<u>1,346,718,821</u>

純資産総額	1,346,718,821
発行済数量	144,200
1口当たり純資産額	9,339.2429

包括利益計算書(2012年3月30日~2012年10月31日)

単位:円

手数料収入	97,992,900
損失(担保付スワップ)	-128,440,164
純損失	-30,447,264
運用費用	7,217,400
運用費用合計	7,217,400
純損失	-37,664,664

2【ファンドの現況】

【純資産額計算書】(平成25年9月30日現在)

日本国債アドバンス・オープン(隔月決算型)

資産総額	707,011,731	円
負債総額	1,541,285	円
純資産総額(-)	705,470,446	円
発行済数量	773,362,331	口
1単位当たり純資産額(/)	0.9122	円

日本国債アドバンス・オープン(年2回決算型)

資産総額	58,440,485	円
負債総額	51,794	円
純資産総額(-)	58,388,691	円
発行済数量	63,700,000	口
1単位当たり純資産額(/)	0.9166	円

<参考>国内債券マザーファンド

資産総額	466,729,254	円
負債総額	0	円
純資産総額(-)	466,729,254	円
発行済数量	409,075,509	口

1 単位当たり純資産額 (/)

1.1409 円

第4【内国投資信託受益証券事務の概要】

名義書換についてその手続、取扱場所、取次所、代理人の名称及び住所並びに手数料

該当事項はありません。

受益者等に対する特典

該当事項はありません。

内国投資信託受益証券の譲渡制限の内容

該当事項はありません。

受益権について

ファンドの受益権は、振替制度における振替受益権であるため、委託会社は、この信託の受益権を取り扱う振替機関が社振法の規定により主務大臣の指定を取り消された場合または当該指定が効力を失った場合であって、当該振替機関の振替業を承継する者が存在しない場合その他やむを得ない事情がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。

なお、受益者は、委託会社がやむを得ない事情等により受益証券を発行する場合を除き、無記名式受益証券から記名式受益証券への変更の請求、記名式受益証券から無記名式受益証券への変更の請求、受益証券の再発行の請求を行わないものとします。

受益権の譲渡

受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等に振替の申請をするものとします。

前項の申請のある場合には、上記の振替機関等は、当該譲渡に係る譲渡人の保有する受益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。ただし、上記の振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等(当該他の振替機関等の上位機関を含みます。)に社振法の規定にしたがい、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行われるよう通知するものとします。

上記の振替について、委託会社は、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合等において、委託会社が必要と認めたとときまたはやむを得ない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

受益権の譲渡の対抗要件

受益権の譲渡は、振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託会社および受託会社に対抗することができません。

受益権の再分割

委託会社は、受託会社と協議のうえ、社債、株式等の振替に関する法律に定めるところにしたがい、一定日現在の受益権を均等に再分割できるものとします。

質権口記載又は記録の受益権の取扱いについて

振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権に係る収益分配金の支払い、解約請求の受付、解約金および償還金の支払い等については、投資信託約款の規定によるほか、民法その他の法令等にしたがって取り扱われます。

第二部【委託会社等の情報】

第1【委託会社等の概況】

1【委託会社等の概況】

（平成25年9月末日現在）

（1）資本金の額	10億円
会社が発行する株式の総数	2,600,000株
発行済株式の総数	825,000株
最近5年間における主な資本金の額の増減	なし

（2）委託会社の機構

委託会社の意思決定機構

委託会社は、12名以内で構成される取締役会により運営されます。

取締役は、委託会社の株主であることを要しません。

取締役は、株主総会において株主によって選任され、その任期は選任後2年以内に終了する事業年度の内最終のものに関する定時株主総会の終結のときまでとします。

取締役会は、社長1名を選定するほか、会長、副社長、専務取締役、および常務取締役を若干名選任することができます。また、取締役会は取締役の中から代表取締役を若干名選定することができます。

取締役会は、法令に別段の定めがある場合を除き、原則として、社長が招集します。取締役会の議長は、原則として、社長がこれにあたります。

取締役会の決議は、法令に別段の定めがある場合を除き、取締役の過半数が出席したうえで、出席した取締役の過半数をもって決めます。

運用の意思決定機構

運用委員会は、月1回、運用本部で開催する「ストラテジー会議」で策定された投資環境分析と運用の基本方針案に基づいて検討を行い、運用の基本方針を決定します。

また、運用に関する内規の制定及び改廃のほか、運用ガイドライン等運用のリスク管理に関する事項を決定します。

運用戦略会議は、月1回、ファンドマネージャーより運用委員会で決定された運用の基本方針に基づいた個別ファンドの具体的な投資戦略が報告され、その内容について検討を行います。

ファンドマネージャーは、運用戦略会議で検討された投資戦略に基づき、ファンド毎に具体的な運用計画を策定し、運用計画書・運用実施計画書に基づいて、運用の指図を行います。

投資調査部は、国内外のマクロ経済・セミマクロ経済の調査・分析、市場環境の分析、企業の調査・分析等を行い、ファンドマネージャーに情報提供を行うことで、運用をサポートします。

運用分析会議は、月1回、運用のパフォーマンス向上、運用の適正性の確保、及び運用のリスク管理に資することを目的に、個別ファンドの運用パフォーマンスを分析・検証・評価し、運用本部にフィードバックを行います。

売買分析会議は、月1回、運用財産に係る運用の適切性確保に資することを目的にファンドの有価証券売買状況や組入れ状況など、日々、リスク管理部、トレーディング部が行っている運用の指図に関するチェック状況の報告・指摘を行います。議長は会議の結果を取締役会へ報告します。

2【事業の内容及び営業の概況】

当社は、「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社として証券投資信託の設定を行うとともに、「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者として、その運用（投資運用業）及びその受益権の募集又は私募（第二種金融商品取引業）を行っています。また、「金融商品取引法」に定める投資一任契約にかかる投資運用業、投資助言・代理業を行っています。

平成25年9月末日現在、当社は、254本の証券投資信託（単位型株式投資信託31本、追加型株式投資信託159本、追加型公社債投資信託16本、親投資信託48本）の運用を行っており、純資産総額は13,550億円（親投資信託を除く。）です。

3【委託会社等の経理状況】

(1) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）ならびに同規則第2条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年内閣府令第52号）により作成しております。

なお、財務諸表の金額については、千円未満の端数を切り捨てて記載しております。

(2) 当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当事業年度（平成24年4月1日から平成25年3月31日まで）の財務諸表について、東陽監査法人の監査を受けております。

(1)【貸借対照表】

科 目	期 別		前事業年度 (平成24年3月31日)		当事業年度 (平成25年3月31日)	
			金 額		金 額	
(資産の部)			千円	千円	千円	千円
流動資産						
現金預金				5,829,748		6,106,221
有価証券				3,298,206		3,199,988
未収委託者報酬				582,010		743,347
未収運用受託報酬				26,297		148,616
未収投資助言報酬				5,637		5,609
前払費用				34,096		30,946
未収収益				264		121
繰延税金資産				63,345		59,846
その他の流動資産				865		2,899
流動資産合計				9,840,470		10,297,596
固定資産						
有形固定資産		*1		175,209		144,072
建物			36,865		30,613	
器具備品			138,344		113,458	
無形固定資産				2,681		2,364
ソフトウェア			559		242	
電話加入権			2,122		2,122	
投資その他の資産				2,069,959		3,268,958
投資有価証券			1,302,277		1,485,543	
親会社株式			644,952		1,633,632	
長期差入保証金			150,350		138,067	
その他			29,225		29,225	

繰延税金資産	50,664		
貸倒引当金	17,510		17,510
投資損失引当金	90,000		
固定資産合計		2,247,851	3,415,395
資産合計		12,088,322	13,712,992

期 別 科 目	前事業年度 (平成24年3月31日)		当事業年度 (平成25年3月31日)	
	金 額		金 額	
(負 債 の 部)	千円	千円	千円	千円
流動負債				
預り金		9,102		20,437
前受投資助言報酬		2,423		
未払金		373,562		460,362
未払収益分配金	69		60	
未払償還金	3,795		3,795	
未払手数料	283,314		352,362	
その他未払金	86,383		104,144	
未払費用		244,251		277,360
未払法人税等		120,129		135,348
未払消費税等		24,817		41,206
賞与引当金		119,240		
流動負債合計		893,527		934,715
固定負債				
退職給付引当金		103,572		253,736
役員退職慰労引当金		27,160		29,850
繰延税金負債				329,085
資産除去債務		31,632		32,175
長期末払金				15,683
固定負債合計		162,365		660,531
負債合計		1,055,892		1,595,246
(純 資 産 の 部)				
株主資本				
資本金		1,000,000		1,000,000
資本剰余金		566,500		566,500
資本準備金	566,500		566,500	
利益剰余金		9,387,988		9,729,121
利益準備金	179,830		179,830	
その他利益剰余金				
別途積立金	5,718,662		5,718,662	
繰越利益剰余金	3,489,496		3,830,629	
株主資本合計		10,954,488		11,295,621
評価・換算差額等				
その他有価証券評価差額金		77,941		822,124
評価・換算差額等合計		77,941		822,124
純資産合計		11,032,429		12,117,745

負債純資産合計		12,088,322		13,712,992
---------	--	------------	--	------------

(2) 【損益計算書】

科 目	前事業年度 (自 平成 23年 4月 1日 至 平成 24年 3月 31日)		当事業年度 (自 平成 24年 4月 1日 至 平成 25年 3月 31日)	
	金 額		金 額	
期 別	千円	千円	千円	千円
営業収益				
委託者報酬		9,376,702		9,375,527
運用受託報酬		46,228		172,528
投資助言報酬		18,232		17,281
営業収益計		9,441,163		9,565,338
営業費用				
支払手数料		5,120,825		5,049,257
広告宣伝費		197,828		245,879
公告費		1,861		250
受益権管理費		11,275		11,634
調査費		1,284,694		1,205,647
調査費	217,345		284,730	
委託調査費	1,067,349		920,917	
委託計算費		218,981		223,541
営業雑経費		224,765		224,886
通信費	46,975		48,257	
印刷費	166,251		152,770	
諸経費			12,246	
協会費	8,409		8,351	
諸会費	3,129		3,261	
営業費用計		7,060,232		6,961,096
一般管理費				
給料		1,106,058		1,230,336
役員報酬	124,707		153,361	
給料・手当	895,319		1,076,974	
賞与	86,032			
交際費		18,762		18,065
寄付金		39,015		41,841
旅費交通費		53,988		48,965
租税公課		18,505		22,377
不動産賃借料		200,615		193,493
賞与引当金繰入		119,240		
退職給付費用		23,022		152,263
役員退職慰労引当金繰入		4,790		5,870
固定資産減価償却費		44,407		36,468
諸経費		340,584		285,230
一般管理費計		1,968,991		2,034,913

営業利益		411,940		569,328

期 別 科 目	前事業年度 (自 平成 23年 4月 1 日 至 平成 24年 3月 31 日)		当事業年度 (自 平成 24年 4月 1 日 至 平成 25年 3月 31 日)	
	金 額		金 額	
	千円	千円	千円	千円
営業外収益				
受取配当金 *1		19,049		18,795
有価証券利息		4,056		3,326
受取利息		1,442		1,294
約款時効収入		131		13
賞与引当金戻入				17,239
雑益		45,964		365
営業外収益計		70,644		41,035
営業外費用				
時効後返還金		1,550		962
信託財産負担金		327		795
固定資産除却損 *2		138		15
雑損		47		35
営業外費用計		2,063		1,808
経常利益		480,521		608,554
特別利益				
投資有価証券売却益		30,950		54,630
投資有価証券償還益				30,325
特別利益計		30,950		84,955
特別損失				
投資有価証券売却損		32,200		
投資有価証券償還損				32,247
投資有価証券評価損 *3				32,860
貸倒引当金繰入		3,000		
特別損失計		35,200		65,108
税引前当期純利益		476,271		628,401
法人税、住民税及び事業税	252,318		280,782	
法人税等調整額	23,951	228,366	26,513	254,268
当期純利益		247,904		374,132

(3) 【株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	1,000,000	1,000,000
当期変動額		
当期変動額合計		
当期末残高	1,000,000	1,000,000
資本剰余金		
資本準備金		
当期首残高	566,500	566,500
当期変動額		
当期変動額合計		
当期末残高	566,500	566,500
資本剰余金合計		
当期首残高	566,500	566,500
当期変動額		
当期変動額合計		
当期末残高	566,500	566,500
利益剰余金		
利益準備金		
当期首残高	179,830	179,830
当期変動額		
当期変動額合計		
当期末残高	179,830	179,830
その他利益剰余金		
別途積立金		
当期首残高	5,718,662	5,718,662
当期変動額		
当期変動額合計		
当期末残高	5,718,662	5,718,662
繰越利益剰余金		
当期首残高	3,274,591	3,489,496
当期変動額		
剰余金の配当	33,000	33,000
当期純利益	247,904	374,132
当期変動額合計	214,904	341,132
当期末残高	3,489,496	3,830,629
利益剰余金合計		
当期首残高	9,173,083	9,387,988
当期変動額		
剰余金の配当	33,000	33,000
当期純利益	247,904	374,132
当期変動額合計	214,904	341,132
当期末残高	9,387,988	9,729,121
株主資本合計		
当期首残高	10,739,583	10,954,488
当期変動額		
剰余金の配当	33,000	33,000
当期純利益	247,904	374,132

当期変動額合計	214,904	341,132
当期末残高	10,954,488	11,295,621
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	30,570	77,941
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	47,370	744,183
当期変動額合計	47,370	744,183
当期末残高	77,941	822,124
評価・換算差額等合計		
当期首残高	30,570	77,941
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	47,370	744,183
当期変動額合計	47,370	744,183
当期末残高	77,941	822,124
純資産合計		
当期首残高	10,770,153	11,032,429
当期変動額		
剰余金の配当	33,000	33,000
当期純利益	247,904	374,132
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	47,370	744,183
当期変動額合計	262,275	1,085,315
当期末残高	11,032,429	12,117,745

[重要な会計方針]

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>その他有価証券</p> <p>時価のあるもの</p> <p>決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は総平均法により算定）</p> <p>時価のないもの</p> <p>総平均法による原価法</p>
2. 固定資産の減価償却の方法	<p>(1) 有形固定資産</p> <p>定率法により償却しております。</p> <p>なお、主な耐用年数は以下のとおりです。</p> <p>建物 15年</p> <p>器具備品 4～15年</p> <p>(2) 無形固定資産</p> <p>定額法により償却しております。</p> <p>なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（3～5年）に基づく定額法により償却しております。</p>
3. 引当金の計上基準	<p>(1) 貸倒引当金</p> <p>債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>(2) 退職給付引当金</p>

4. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	<p>従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、計上しております。</p> <p>数理計算上の差異については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定年数（5年）による定額法により発生翌期から費用処理することとしております。</p> <p>(3) 役員退職慰労引当金</p> <p>役員の退職慰労金の支出に備えるため、当社内規に基づく期末要支給見積額を計上しております。</p> <p>消費税等の会計処理方法 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。</p>
----------------------------	---

[会計方針の変更等]

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

1. 減価償却方法の変更

当社は、法人税法の改正に伴い、当事業年度より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これによる損益に与える影響額は軽微であります。

[表示方法の変更]

従来、「投資助言報酬」については、営業収益の「運用受託報酬」に計上しておりましたが、当事業年度より事業運営の実態をより適切に表示するために区分掲記しております。

[追加情報]

(退職給付引当金)

当社は、当事業年度より退職給付制度の大幅な変更に伴い退職給付に係る会計処理をより適正に行うため、退職給付債務の計算方法を簡便法から原則法に変更しております。

この変更に伴い、退職給付債務について計算した簡便法と原則法の差額87,114千円を一般管理費に計上しております。

また、平成24年7月に退職一時金制度の一部について確定拠出年金制度へ移換し、「退職給付制度間の移行等に関する会計処理」（企業会計基準適用指針第1号）を適用しております。

これに伴う確定拠出年金制度への資産の既移換額は8,010千円であり、未移換額は当事業年度末日において、23,521千円であり、その他未払金（流動負債）に7,837千円、長期未払金（固定負債）に15,683千円を計上しております。

[注記事項]

(貸借対照表関係)

前事業年度 (平成24年 3月31日)	当事業年度 (平成25年 3月31日)
*1 有形固定資産の減価償却累計額 建物 43,586 千円 器具備品 133,977 千円	*1 有形固定資産の減価償却累計額 建物 49,838 千円 器具備品 160,968 千円

(損益計算書関係)

前事業年度 (自 平成 23年 4月 1日 至 平成 24年 3月 31日)	当事業年度 (自 平成 24年 4月 1日 至 平成 25年 3月 31日)
*1 各科目に含まれている関係会社に対するものは、次のとおりであります。 受取配当金 16,310 千円	*1 各科目に含まれている関係会社に対するものは、次のとおりであります。 受取配当金 16,310 千円
*2 固定資産除却損の内訳は次のとおりであります。 器具備品 138 千円	*2 固定資産除却損の内訳は次のとおりであります。 器具備品 15 千円
	*3 投資有価証券評価損の内訳は次のとおりであります。 投資先会社の財政状態及び業績等を勘案した結果、投資有価証券評価損32,860千円を特別損失として計上しております。 なお、当該評価損は過年度に計上しておりました投資損失引当金90,000千円の戻入益と投資有価証券評価損122,860千円を相殺したものです。

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)

(1)発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	825,000			825,000

(2)配当に関する事項

配当金支払額

平成23年6月27日開催の定時株主総会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

配当金の総額	33,000千円
1株当たり配当額	40円
基準日	平成23年3月31日
効力発生日	平成23年6月28日

基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

平成24年6月25日開催の定時株主総会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

配当金の総額	33,000千円
1株当たり配当額	40円
基準日	平成24年3月31日
効力発生日	平成24年6月26日

配当の原資

利益剰余金

当事業年度（自平成24年4月1日 至平成25年3月31日）

(1) 発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式（株）	825,000			825,000

(2) 配当に関する事項

配当金支払額

平成24年6月25日開催の定時株主総会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

配当金の総額	33,000千円
1株当たり配当額	40円
基準日	平成24年3月31日
効力発生日	平成24年6月26日

基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

平成25年6月25日開催の定時株主総会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

配当金の総額	33,000千円
1株当たり配当額	40円
基準日	平成25年3月31日
効力発生日	平成25年6月26日
配当の原資	利益剰余金

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、金融商品取引法に定める投資運用業、投資助言・代理業及び第二種金融商品取引業を営んでおります。これらの事業を当社では、自己資金で行っております。

一方、資金運用については、短期的な預金及び債券、投資有価証券での運用を行っております。なお、デリバティブ取引は行っておりません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

当社が保有する主な金融資産は現金預金、有価証券、未収委託者報酬、未収運用受託報酬、投資有価証券及び親会社株式であります。

預金は預入先金融機関の信用リスクに晒されております。また、長期差入保証金はそのほとんどが当社の賃貸契約における敷金であり、賃貸先の信用リスクに晒されておりますが、

契約締結時に必要な確認を実施し、当該リスクの低減を図っております。また有価証券、投資有価証券及び親会社株式は発行体の信用リスクやマーケットリスク等に晒されております。また、未収委託者報酬は投資信託財産中から当社（委託者）が得られる報酬であり、未収であるものであります。また、未収運用受託報酬は投資一任契約の契約先から当社が得られる報酬であり、未収であるものであります。

金融負債の主なものは、未払金（未払手数料）、未払法人税等であります。未払金（未払手数料）は委託者報酬中から当社が販売会社に支払うべき手数料であり、未払いのものであります。

（３） 金融商品に係るリスク管理体制

当社は経営の健全化及び経営資源の効率化を目的として、リスク管理体制の強化を図り、適切なリスク・コントロールに努めております。金融資産に関わる信用リスク、マーケットリスク等を管理するため、社内規程等に従い、ポジション枠や与信枠等の適切な管理に努めております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（（注2）参照）。

前事業年度（平成24年3月31日）

	貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1)現金預金	5,829,748	5,829,748	
(2)有価証券	3,298,206	3,298,206	
(3)未収委託者報酬	582,010	582,010	
(4)未収運用受託報酬	26,297	26,297	
(5)投資有価証券	600,316	600,316	
(6)親会社株式	644,952	644,952	
(7)未払金（未払手数料）	283,314	283,314	
(8)未払法人税等	120,129	120,129	

当事業年度（平成25年3月31日）

	貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1)現金預金	6,106,221	6,106,221	
(2)有価証券	3,199,988	3,199,988	
(3)未収委託者報酬	743,347	743,347	
(4)未収運用受託報酬	148,616	148,616	
(5)投資有価証券	936,443	936,443	
(6)親会社株式	1,633,632	1,633,632	
(7)未払金（未払手数料）	352,362	352,362	
(8)未払法人税等	135,348	135,348	

（注1）金融商品の時価の算定方法

- （1）現金預金、（3）未収委託者報酬、（4）未収運用受託報酬、（7）未払金（未払手数料）、（8）未払法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(2) 有価証券、(5) 投資有価証券、(6) 親会社株式

これらの時価について、上場株式は取引所の価格、債券は取引所の価格又は日本証券業協会が公表する価格等、投資信託は公表されている基準価額等によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の貸借対照表計上額

(単位：千円)

区分	平成24年3月31日	平成25年3月31日
非上場株式	701,961	549,100
長期差入保証金	150,350	138,067

非上場株式については、市場価額がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(5) 投資有価証券」には含めておりません。また、長期差入保証金については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、時価評価の対象に含めておりません。

(注3) 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

前事業年度(平成24年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金預金	5,829,748			
未収委託者報酬	582,010			
未収運用受託報酬	26,297			
有価証券及び投資有価証券 その他有価証券のうち満期があるもの その他	3,298,206	397,716	2,960	
合計	9,736,262	397,716	2,960	

当事業年度(平成25年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金預金	6,106,221			
未収委託者報酬	743,347			
未収運用受託報酬	148,616			
有価証券及び投資有価証券 その他有価証券のうち満期があるもの その他	3,199,988	568,739	4,720	
合計	10,198,173	568,739	4,720	

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前事業年度（平成24年3月31日）

		（単位：千円）		
	種類	貸借対照表 計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が取得 原価を超えるもの	(1) 株式	733,260	605,961	127,298
	(2) 債券			
	国債・地方債等	2,718,551	2,718,501	49
	社債			
	その他			
	(3) その他	212,768	204,226	8,542
	小計	3,664,579	3,528,689	135,890
貸借対照表計上額が取得 原価を超えないもの	(1) 株式	9,035	12,350	3,315
	(2) 債券			
	国債・地方債等	579,654	579,678	23
	社債			
	その他			
	(3) その他	290,205	302,044	11,839
	小計	878,895	894,073	15,177
	合計	4,543,474	4,422,762	120,712

（注）非上場株式（貸借対照表計上額 701,961千円）については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「**その他有価証券**」には含めておりません。

当事業年度（平成25年3月31日）

		（単位：千円）		
	種類	貸借対照表 計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が取得 原価を超えるもの	(1) 株式	1,893,815	618,311	1,275,503
	(2) 債券			
	国債・地方債等	2,699,445	2,698,898	546
	社債			
	その他			
	(3) その他	341,998	291,226	50,772
	小計	4,935,258	3,608,436	1,326,822
貸借対照表計上額が取得 原価を超えないもの	(1) 株式			
	(2) 債券			
	国債・地方債等	299,853	299,880	27
	社債			
	その他			
	(3) その他	534,951	587,088	52,136
	小計	834,804	886,969	52,164
	合計	5,770,063	4,495,405	1,274,658

（注）非上場株式（貸借対照表計上額 549,100千円）については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2. 事業年度中に売却したその他有価証券

前事業年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）

種類	売却額	（単位：千円）	
		売却益の 合計額	売却損の 合計額
（1）株式			
（2）債券			
国債・地方債等			
社債			
その他			
（3）その他	198,750	30,950	32,200
合計	198,750	30,950	32,200

当事業年度（自平成24年4月1日 至平成25年3月31日）

種類	売却額	（単位：千円）	
		売却益の 合計額	売却損の 合計額
（1）株式	84,630	54,630	
（2）債券			
国債・地方債等			
社債			
その他			
（3）その他			
合計	84,630	54,630	

（デリバティブ取引関係）

当社は、デリバティブ取引を利用していないため該当事項はありません。

（退職給付関係）

1. 採用している退職給付制度の概要

当社の退職給付制度は当事業年度より大幅な変更を行い、確定拠出年金制度（証券総合型DC 岡三プラン）、確定給付企業年金制度及び退職一時金制度から構成されております。

2. 退職給付債務に関する事項

	前事業年度	当事業年度

	(平成24年3月31日)	(平成25年3月31日)
退職給付債務(千円)	103,572	429,752
(1)年金資産(千円)		205,027
(2)退職給付引当金(千円)	103,572	253,736
(3)未認識数理計算上の差異(千円)		29,011

(注)当社は前事業年度においては、退職給付債務の算定方法を簡便法により計算する方法によっておりましたが、当事業年度から原則法により計算する方法へ変更しております。

3. 退職給付費用に関する事項

	前事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当事業年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
(1)勤務費用(千円)(注)1	16,397	40,010
(2)利息費用(千円)		4,812
(3)原則法への変更による費用処理額(千円)(注)2		87,114
(4)期待運用収益(千円)		616
(5)数理計算上の差異の費用処理額(千円)		10,118
(6)退職給付費用(千円)	16,397	141,437
(7)その他(千円)(注)3	6,625	10,825

- (注)1.前事業年度は簡便法を採用しており、退職給付費用は「(1)勤務費用」に計上しております。
2.当事業年度の期首において、退職給付債務の算定方法を簡便法から原則法へ変更したことにより生じたものであり、一般管理費として一括費用処理しております。
3.「(7)その他」は、確定拠出年金への掛金支払額であります。

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

(1)退職給付見込額の期間配分方法
期間定額基準

(2)割引率

前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
	0.99%

(3)期待運用収益率

前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
	0.5%

(4)数理計算上の差異の処理年数

各事業年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(5年)による定額法により按分した額を、それぞれ発生翌事業年度から費用処理することとしております。

(税効果会計関係)

前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
1.繰延税金資産及び繰延税金負債の発生的主要原因別内訳 繰延税金資産 賞与引当金 45,311 千円	1.繰延税金資産及び繰延税金負債の発生的主要原因別内訳 繰延税金資産 賞与引当金 千円

退職給付引当金	36,768 千円	退職給付引当金	90,076 千円
役員退職慰労引当金	9,641 千円	役員退職慰労引当金	10,596 千円
ゴルフ会員権評価損	3,231 千円	ゴルフ会員権評価損	3,231 千円
貸倒引当金	6,216 千円	貸倒引当金	6,216 千円
その他有価証券評価差額金	5,674 千円	その他有価証券評価差額金	19,211 千円
投資有価証券評価損	3,002 千円	投資有価証券評価損	3,002 千円
未払広告宣伝費	29,217 千円	未払広告宣伝費	42,193 千円
投資損失引当金	31,950 千円	投資損失引当金	千円
資産除去債務	11,229 千円	資産除去債務	11,422 千円
その他	18,184 千円	その他	24,324 千円
繰延税金資産の合計	200,427 千円	繰延税金資産の合計	210,276 千円
繰延税金負債		繰延税金負債	
負ののれん償却額	28,908 千円	負ののれん償却額	千円
その他有価証券評価差額金	48,445 千円	その他有価証券評価差額金	471,745 千円
その他	9,063 千円	その他	7,770 千円
繰延税金負債の合計	86,417 千円	繰延税金負債の合計	479,516 千円
繰延税金資産の純額	114,009千円	繰延税金資産の純額	269,239千円
2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳		2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳	
法定実効税率	41.0%	法定実効税率	38.0%
（調整）		（調整）	
交際費等永久に損金に算入されない項目	8.1%	交際費等永久に損金に算入されない項目	3.9%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	2.0%	受取配当金等永久に益金に算入されない項目	2.4%
住民税均等割等	0.5%	住民税均等割等	0.4%
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	4.1%	税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	
還付法人税等	2.7%	還付法人税等	
その他	1.1%	その他	0.6%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	47.9%	税効果会計適用後の法人税等の負担率	40.5%
3. 法定実効税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の修正			
<p>「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」（平成23年法律第114号）及び「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」（平成23年法律第117号）が平成23年12月2日に公布され、平成24年4月1日以降に開始する事業年度から法人税率等が変更されることとなりました。これに伴い、平成24年4月1日に開始する事業年度から平成26年4月1日に開始する事業年度の期間において解消が見込まれる一時差異については、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率を41%から38%に変更し、平成27年4月1日に開始する事業年度以降において解消が見込まれる一時差異については、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率を41%から35.5%に変更しております。</p> <p>この変更により、当事業年度末の繰延税金資産の純額（繰延税金負債の金額を控除した金額）は12,842千円減少し、当事業年度に計上された法人税等調整額は19,476千円、その他有価証券評価差額金は6,633千円、それぞれ増加しております。</p>			

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

1. 当該資産除去債務の概要

本店の建物の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。

2. 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を取得から15年～31年と見積り、割引率は1.404%～2.290%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

3. 当該資産除去債務の総額の増減

	前事業年度 (自 平成23年4月 1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月 1日 至 平成25年3月31日)
期首残高(千円)	10,933	31,632
有形固定資産の取得に伴う増加額(千円)	20,282	
時の経過による調整額(千円)	416	543
期末残高(千円)	31,632	32,175

(セグメント情報等)

1. セグメント情報

(1) 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は「投資信託部門」及び「投資顧問部門」ごとに、経営戦略を立案・決定し、経営資源の配分及び業績の評価を行っております。

なお、「投資顧問部門」のセグメントの売上高、利益又は損失の金額及び資産の額がいずれも事業セグメントの合計額の10%未満でありますので、報告セグメントは「投資信託部門」のみであります。

報告セグメントである「投資信託部門」では投資信託の運用、商品開発等を行っております。

報告セグメントが1つであり、開示情報としての重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しております。

(2) 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告セグメントが1つであり、開示情報としての重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しております。

(3) 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前事業年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）

報告セグメントが1つであり、開示情報としての重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しております。

当事業年度（自平成24年4月1日 至平成25年3月31日）

報告セグメントが1つであり、開示情報としての重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しております。

(4) 報告セグメント合計額と財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

前事業年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）

報告セグメントが1つであり、開示情報としての重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しております。

当事業年度（自平成24年4月1日 至平成25年3月31日）

報告セグメントが1つであり、開示情報としての重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しております。

2. 関連情報

前事業年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）

(1) 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 地域ごとの情報

営業収益

本邦の外部顧客への営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

(3) 主要な顧客ごとの情報

該当事項はありません。

当事業年度（自平成24年4月1日 至平成25年3月31日）

(1) 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 地域ごとの情報

営業収益

本邦の外部顧客への営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

(3) 主要な顧客ごとの情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

該当事項はありません。

4. 報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報

該当事項はありません。

5. 報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報

該当事項はありません。

(関連当事者情報)

1. 関連当事者との取引

財務諸表提出会社と関連当事者との取引

前事業年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）

財務諸表提出会社と同一の親会社を持つ会社等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (千円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有 (被所有)割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
同一の親会社を持つ会社	岡三証券株式会社	東京都中央区	5,000,000	証券業	被所有直接 2.30%	当社ファンドの募集取扱 役員の出向 4名	支払手数料の支払 (注2)	3,450,056	未払手数料	181,880

(注) 1. 上記の取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針

過去の取引条件及びファンドの商品性を勘案して決定しております。

当事業年度（自平成24年4月1日 至平成25年3月31日）

財務諸表提出会社と同一の親会社を持つ会社等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (千円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有 (被所有)割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
同一の親会社を持つ会社	岡三証券株式会社	東京都中央区	5,000,000	証券業	被所有直接 2.30%	当社ファンドの募集取扱	支払手数料の支払 (注2)	3,109,435	未払手数料	201,400

(注) 1. 上記の取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針

過去の取引条件及びファンドの商品性を勘案して決定しております。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

株式会社岡三証券グループ（東京証券取引所に上場）

(2) 重要な関連会社の要約財務情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

前事業年度 (自 平成 23年 4月 1日 至 平成 24年 3月 31日)	当事業年度 (自 平成 24年 4月 1日 至 平成 25年 3月 31日)

1株当たり純資産額	13,372円64銭	1株当たり純資産額	14,688円17銭
1株当たり当期純利益金額	300円49銭	1株当たり当期純利益金額	453円49銭

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。

1. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりです。

	前事業年度 (自 平成23年4月 1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月 1日 至 平成25年3月31日)
当期純利益（千円）	247,904	374,132
普通株主に帰属しない金額（千円）		
普通株式に係る当期純利益（千円）	247,904	374,132
普通株式の期中平均株式数（株）	825,000	825,000

2. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりです。

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
純資産の部の合計額（千円）	11,032,429	12,117,745
純資産の部から控除する合計額（千円）		
普通株式に係る期末の純資産額（千円）	11,032,429	12,117,745
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数（株）	825,000	825,000

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

4【利害関係人との取引制限】

委託会社は、「金融商品取引法」の定めるところにより、利害関係人との取引について、次に掲げる行為が禁止されています。

自己又はその取締役若しくは執行役との間における取引を行うことを内容とした運用を行うこと（投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。）。

運用財産相互間において取引を行うことを内容とした運用を行うこと（投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。）。

通常の取引の条件と異なる条件であって取引の公正を害するおそれのある条件で、委託会社の親法人等（委託会社の総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以

下において同じ。)又は子法人等(委託会社が総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下同じ。)と有価証券の売買その他の取引又は店頭デリバティブ取引を行うこと。

委託会社の親法人等又は子法人等の利益を図るため、その行う投資運用業に関して運用の方針、運用財産の額若しくは市場の状況に照らして不必要な取引を行うことを内容とした運用を行うこと。

上記に掲げるもののほか、委託会社の親法人等又は子法人等が関与する行為であって、投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれのあるものとして内閣府令で定める行為。

5【その他】

(1) 定款の変更等

委託会社の定款の変更に関しては、株主総会の決議が必要です。

委託会社は、事業の全部又は一部を譲渡することがあります。

委託会社は、分割により事業の全部又は一部を承継させることがあります。

(2) 訴訟事件その他の重要事項

該当事項はありません。

第2【その他の関係法人の概況】

1【名称、資本金の額及び事業の内容】

(1) 「受託会社」

三井住友信託銀行株式会社

資本金の額

平成25年3月末日現在、342,037百万円

事業の内容

銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律(兼営法)に基づき信託業務を営んでいます。

(2) 「販売会社」

名称	資本金の額(百万円) 平成25年3月末日現在	事業の内容
岡三証券株式会社	5,000	「金融商品取引法」に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。

2【関係業務の概要】

(1)「受託会社」は、主に以下の業務を行います。

投資信託財産の保管、管理及び計算

委託会社の指図に基づく投資信託財産の処分

(2)「販売会社」は、主に以下の業務を行います。

受益権の募集の取扱い

収益分配金の再投資

収益分配金、償還金及び解約金の支払いの取扱い

投資信託説明書（交付目論見書）、投資信託説明書（請求目論見書）及び運用報告書の交付の取扱い

解約請求の受付、買取請求の受付・実行

3【資本関係】

（持株比率5.0%以上を記載します。）

該当事項はありません。

第3【参考情報】

当計算期間において、本ファンドに係る以下の金融商品取引法第25条第1項各号に掲げる書類を関東財務局長宛に提出しております。

平成25年 3月13日	臨時報告書
平成25年 5月13日	臨時報告書
平成25年 6月 4日	有価証券報告書、有価証券届出書
平成25年 7月16日	臨時報告書

独立監査人の監査報告書

平成25年10月31日

岡三アセットマネジメント株式会社

取締役会 御中

東陽監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 鈴木基仁 印指定社員
業務執行社員 公認会計士 助川正文 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている「日本国債アドバンス・オープン（隔月決算型）」の平成25年3月8日から平成25年9月9日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、「日本国債アドバンス・オープン（隔月決算型）」の平成25年9月9日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

岡三アセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注)1.上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

[ファンドの監査報告書（当期）へ](#)

[委託会社の監査報告書（当期）へ](#)

独立監査人の監査報告書

平成25年10月31日

岡三アセットマネジメント株式会社

取締役会 御中

東陽監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 鈴木基仁 印指定社員
業務執行社員 公認会計士 助川正文 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている「日本国債アドバンス・オープン（年2回決算型）」の平成25年3月8日から平成25年9月9日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、「日本国債アドバンス・オープン（年2回決算型）」の平成25年9月9日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

岡三アセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注)1.上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

独立監査人の監査報告書

平成25年6月25日

岡三アセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

東陽監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 助川正文指定社員
業務執行社員 公認会計士 宝金正典

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている岡三アセットマネジメント株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの第49期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、岡三アセットマネジメント株式会社の平成25年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注)上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。